

2023年度豊岡市
介護予防・日常生活圏域二一ズ調査
介護・在宅医療意向調査
在宅介護実態調査

集計結果 概要版

2023年10月

豊岡市

【 目 次 】

第1章 調査の概要.....	1
1 調査目的.....	1
2 実施内容.....	1
(1) 調査対象.....	1
(2) 調査方法.....	1
(3) 調査期間.....	1
(4) 回収状況.....	2
(5) 調査結果の表示方法	2
第2章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果	3
1 属性	3
■性別	3
■年齢	3
■世帯の状況.....	4
■日中一人になることがあるか.....	4
2 日ごろの生活について.....	5
■近隣との付き合い	5
■外出頻度	6
■趣味や生きがいの有無	6
■家族や友人・知人以外の相談相手	7
3 認知症について.....	8
■自分や身近な人に認知症の疑いがある時の相談先.....	8
■認知症と診断された直後に欲しい支援	9
■認知症カフェの認知度	9
■市が認知症施策として優先して取り組むべきもの	10
4 介護保険サービスや高齢者福祉サービスについて	11
■普段の生活での介護・介助の必要性	11
■誰かの介護・介助をしているか	11
■高齢者福祉サービスの利用状況と今後の利用意向.....	12
5 在宅医療について	13
■在宅医療の認知度	13
■在宅医療を支援するサービスの認知度と利用状況.....	13
■かかりつけ医等の有無	14
■高齢期に医療や介護が必要になった際の希望	15
■自宅での看取りの希望と実現の可能性	16
■自宅で最期まで過ごすことができると考える理由、難しいと考える理由	16
■地域包括支援センターの認知状況.....	17
6 その他について.....	18
■高齢者の権利や生活を守るための制度やサービスの認知度	18
■市が高齢者施策として優先して取り組むべきもの	19
7 基本チェックリスト結果.....	20

(1) 基本チェックリスト各項目の該当者	20
(2) 事業対象者	20
第3章 介護・在宅医療意向調査結果	22
1 属性	22
■性別	22
■年齢	22
■世帯の状況	23
■日中一人になることがあるか	23
2 日ごろの生活について	24
■近隣との付き合い	24
■外出頻度	25
■趣味や生きがいの有無	25
3 介護保険サービスや高齢者福祉サービスについて	26
■要介護度	26
■早朝や夜間に支援を必要とする機会	26
■家族や親族による介護・介助の頻度	27
4 在宅医療について	28
■在宅医療の認知度	28
■在宅医療を支援するサービスの認知度と利用状況	28
■かかりつけ医等の有無	29
■高齢期に医療や介護が必要になった際の希望	30
■自宅での看取りの希望と実現可能性	30
■自宅で最期まで過ごすことができると考える理由、難しいと考える理由	31
■今後在宅医療や在宅介護が進むために必要なこと	33
5 その他について	34
■地域包括支援センターの認知度	34
■高齢者の権利や生活を守るための制度やサービスの認知度	34
■介護保険制度全体をよりよくするために市が力を入れるべきこと	35
■市が高齢者施策として優先して取り組むべきもの	36
第4章 在宅介護実態調査の概要	37
■本人の認定状況	37
■主な介護者の性別・年齢	37
■主な介護者が行っている介護	38
■介護のための離職の有無	38
■介護保険サービスの利用の有無	39
■主な介護者の勤務形態と働き方の調整状況	39
■就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援	40
■今後の仕事と介護の両立の可能性	41
■在宅生活の継続のために利用している保険外サービスと必要と感じるサービス	41
【必要と感じる支援・サービス】	42
■訪問診療の利用状況	42

第1章 調査の概要

1 調査目的

① 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

高齢者の生活の状況や心身の状態などについて把握し、2024年度より始まる「豊岡市老人福祉・第9期介護保険事業計画」の策定に向け、基礎資料として、介護予防などに関する事業の推進に活用します。

② 介護・在宅医療意向調査

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査とあわせ、在宅生活を継続するにあたっての意向及び課題等を把握し、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査とあわせ、「老人福祉計画及び第8期介護保険事業計画」の基礎資料とします。

③ 在宅介護実態調査

在宅生活を送る要介護認定者の「在宅生活の継続」や「介護者の就労継続」に有効な介護サービスのあり方を検討するための調査として実施しました。調査結果は、2024年度より始まる「豊岡市老人福祉・第9期介護保険事業計画」の策定に向けた基礎資料として活用します。

2 実施内容

(1) 調査対象

① 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

在宅で生活している65歳以上の高齢者のうち、要介護認定を受けていない方

② 介護・在宅医療意向調査

在宅で生活している65歳以上の高齢者のうち、要介護認定者

③ 在宅介護実態調査

在宅で生活している65歳以上の高齢者のうち、要支援及び要介護認定者

(2) 調査方法

① 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

調査対象者(23,045人)から3,000人を無作為抽出し、調査票の郵送配布、郵送回収により実施

② 介護・在宅医療意向調査

調査対象者(2,208人)から1,000人を無作為抽出し、調査票の郵送配布、郵送回収により実施

③ 在宅介護実態調査

認定調査の訪問時に、140人の方に対して、聞き取りにより実施

(3) 調査期間

① 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

2023年3月31日(金)～2023年4月28日(金)

② 介護・在宅医療意向調査

2023年3月31日(金)～2023年4月28日(金)

③ 在宅介護実態調査

2023年4月～2023年6月

(4) 回収状況

	配布数	回収数	回収率	有効回答数	有効回収数
①介護予防・日常生活圏域 ニーズ調査	3,000	2,008	66.9%	2,007	66.9%
②介護・在宅医療意向調査	1,000	559	55.9%	558	55.8%

	調査数 (聞き取り数)	有効回答数
③在宅介護実態調査	140	140

(5) 調査結果の表示方法

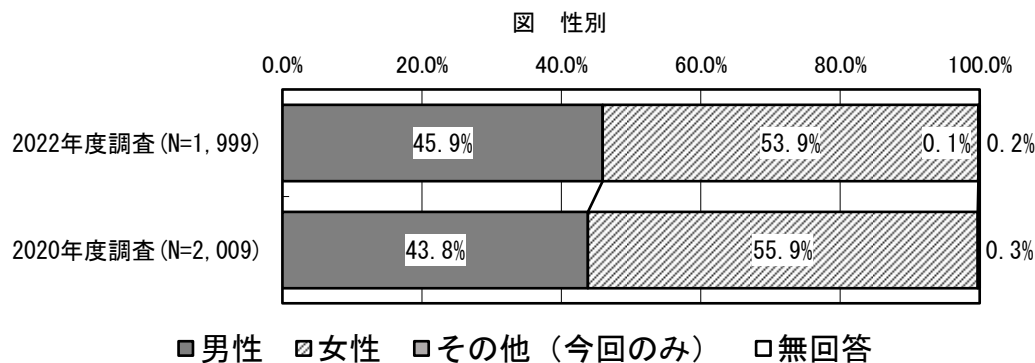
- ・設問ごとの集計母数はグラフ中に「N=***」、各項目の回答数は「n=***」と表記しています。
- ・集計結果の百分率(%)は小数点第2位を四捨五入した値を表記しています。このため、単数回答設問の選択肢ごとの構成比の見かけ上の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答設問では、当該設問に回答すべき回答者数を母数として選択肢ごとにそれぞれ構成比を求めています。そのため、構成比の合計は通常100.0%にはなりません。
- ・クロス集計のグラフ・数表では、集計区分ごとの集計母数を「N=***」と表記しています。
- ・クロス集計のグラフ・数表では、無回答を除いているため、各項目の総和と全体の集計母数(N数)は一致しない場合があります。

第2章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

1 属性

■性別

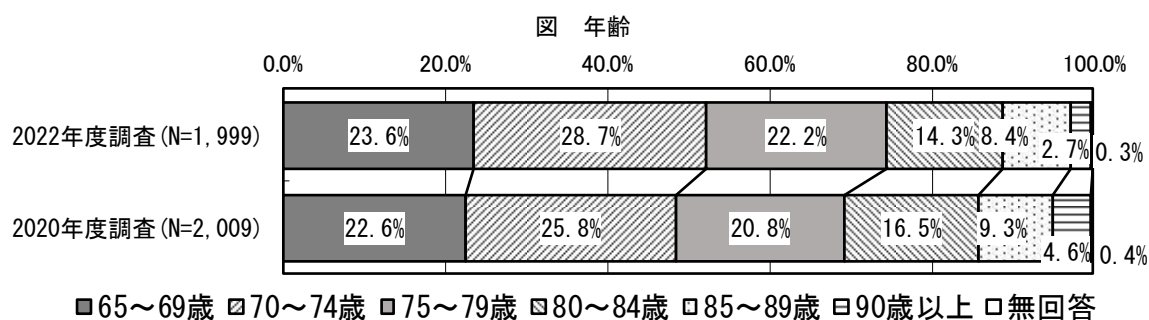
性別についてみると、「女性」が53.9%、「男性」が45.9%となっています。



■年齢

年齢についてみると、「70～74歳」（28.7%）が最も多く、次いで「65～69歳」（23.6%）、「75～79歳」（22.2%）となっており、75歳未満が52.3%となっています。

前回調査より75歳未満の回答者が多くなっています。



性別にみると、男女ともに75歳未満が5割以上を占めています。

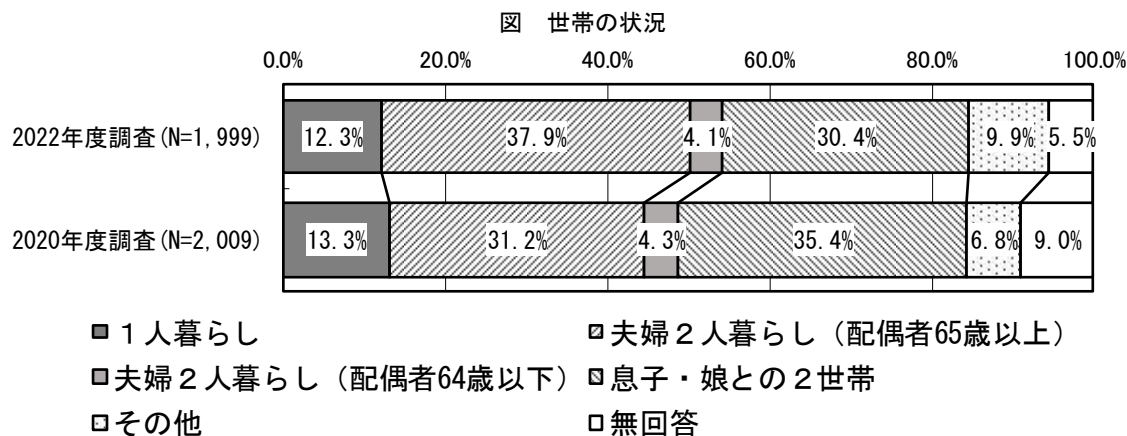
表 性別 年齢

	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	無回答	合計
男性	221 24.1%	253 27.6%	216 23.5%	124 13.5%	78 8.5%	25 2.7%	1 0.1%	918 100.0%
女性	249 23.1%	320 29.7%	227 21.1%	162 15.0%	89 8.3%	28 2.6%	2 0.2%	1,077 100.0%
その他	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%
無回答	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	2 66.7%	3 100.0%
合計	471 23.6%	573 28.7%	443 22.2%	286 14.3%	168 8.4%	53 2.7%	5 0.3%	1,999 100.0%

■世帯の状況

世帯の状況についてみると、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」（37.9%）が最も多く、次いで「息子・娘との2世帯」（30.4%）、「1人暮らし」（12.3%）となっています。

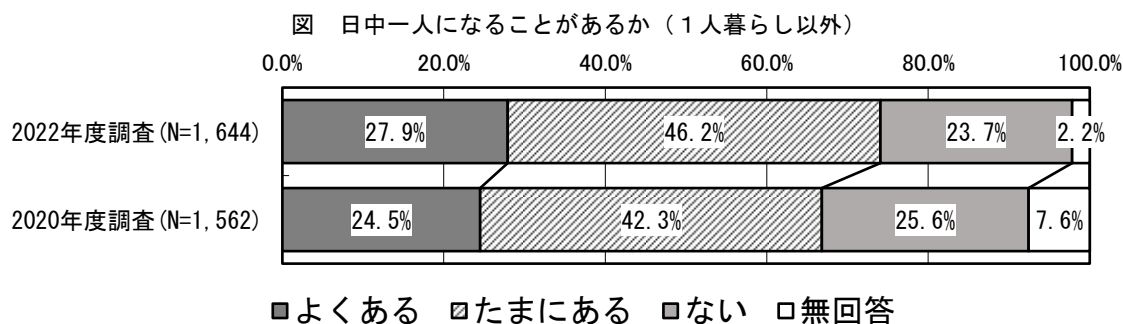
前回調査と比較すると、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が6.7ポイント高くなっている一方、「息子・娘との2世帯」が5.0ポイント低くなっています。「1人暮らし」は前回調査と同程度となっています。



■日中一人になることがあるか

1人暮らしでない人について、「日中一人になることがあるか」をみると、「たまにある」（46.2%）が最も多く、次いで「よくある」（27.9%）、「ない」（23.7%）となっています。日中一人になることがある方（「よくある」と「たまにある」の合計）は74.1%となっています。

前回調査と比較すると、日中一人になることがある方は7.3ポイント高くなっています。



2 日ごろの生活について

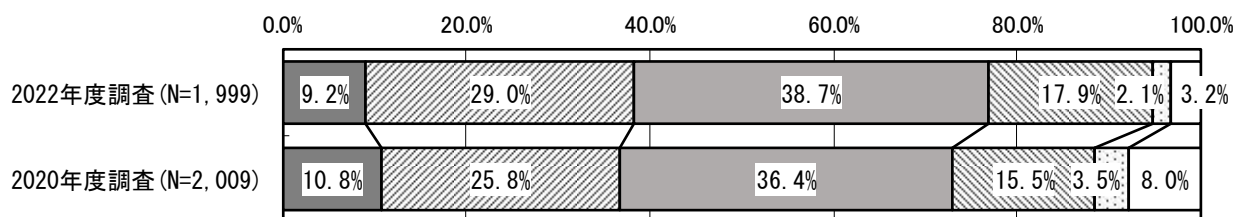
■近隣との付き合い

あなたは、ご近所の人とどの程度のお付き合いをされていますか。（1つに○）

ご近所との付き合いについてみると、「世間話をする程度の人はいる」（38.7%）が最も多く、次いで「内容によっては相談し助け合える人がある」（29.0%）、「あいさつをする程度の人はいる」（17.9%）となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はありません。

図 ご近所との付き合い



- どんなときでも相談し合える人がある
- 内容によっては相談し助け合える人がある
- 世間話をする程度の人はいる
- あいさつをする程度の人はいる
- ほとんど近所付き合いはない
- 無回答

居住地域別にみると、相談し合える人がある人（「どんなときでも相談し合える人がある」と「内容によっては相談し助け合える人がある」の合計）は城崎・竹野・出石地域では4割以上を占めており、竹野地域（46.2%）が最も多くなっています。

図 居住地域別 近隣との付き合い

	どんなときでも相談し合える人がある	内容によっては相談し助け合える人がある	世間話をする程度の人はいる	あいさつをする程度の人はいる	ほとんど近所付き合いはない	無回答	合計
豊岡地域	85	284	375	216	25	21	1,006
	8.4%	28.2%	37.3%	21.5%	2.5%	2.1%	100.0%
城崎地域	9	26	28	10	1	6	80
	11.3%	32.5%	35.0%	12.5%	1.3%	7.5%	100.0%
竹野地域	17	44	45	19	1	6	132
	12.9%	33.3%	34.1%	14.4%	0.8%	4.5%	100.0%
日高地域	37	99	168	61	4	16	385
	9.6%	25.7%	43.6%	15.8%	1.0%	4.2%	100.0%
出石地域	20	93	95	38	10	9	265
	7.5%	35.1%	35.8%	14.3%	3.8%	3.4%	100.0%
但東地域	13	31	54	13	1	5	117
	11.1%	26.5%	46.2%	11.1%	0.9%	4.3%	100.0%
無回答	2	3	8	0	0	1	14
	14.3%	21.4%	57.1%	0.0%	0.0%	7.1%	100.0%
合計	183	580	773	357	42	64	1,999
	9.2%	29.0%	38.7%	17.9%	2.1%	3.2%	100.0%

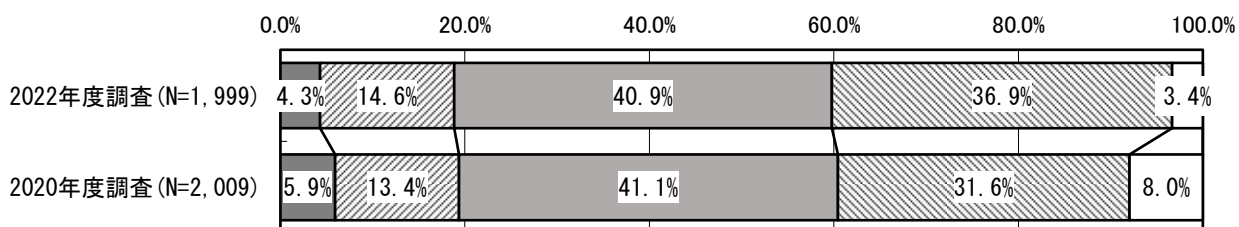
■外出頻度

あなたは、週に1回以上は外出していますか。(1つに○)

外出頻度についてみると、「週2～4回」(40.9%)が最も多く、次いで「週5回以上」(36.9%)、「週1回」(14.6%)となっています。

前回調査と比較すると、「週5回以上」が5.3ポイント高くなっています。

図 外出頻度



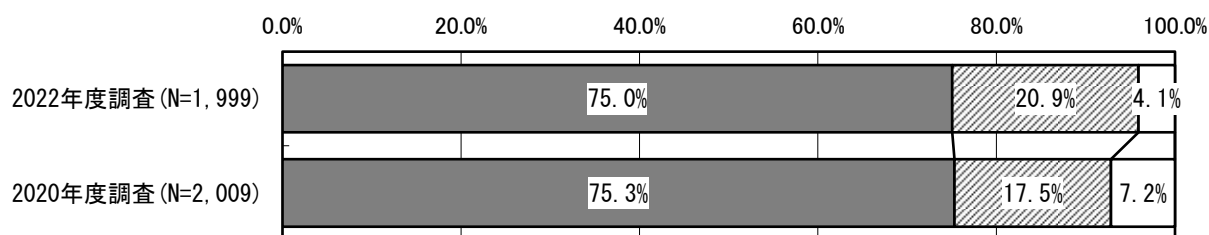
■ほとんど外出しない ■週1回 ■週2～4回 ■週5回以上 □無回答

■趣味や生きがいの有無

あなたには、趣味や生きがいとしているもの(こと)がありますか。

趣味や生きがいの有無についてみると、「ある」が75.0%、「思いつかない」が20.9%となっています。前回調査と比較すると、大きな差はありません。

図 趣味や生きがいの有無



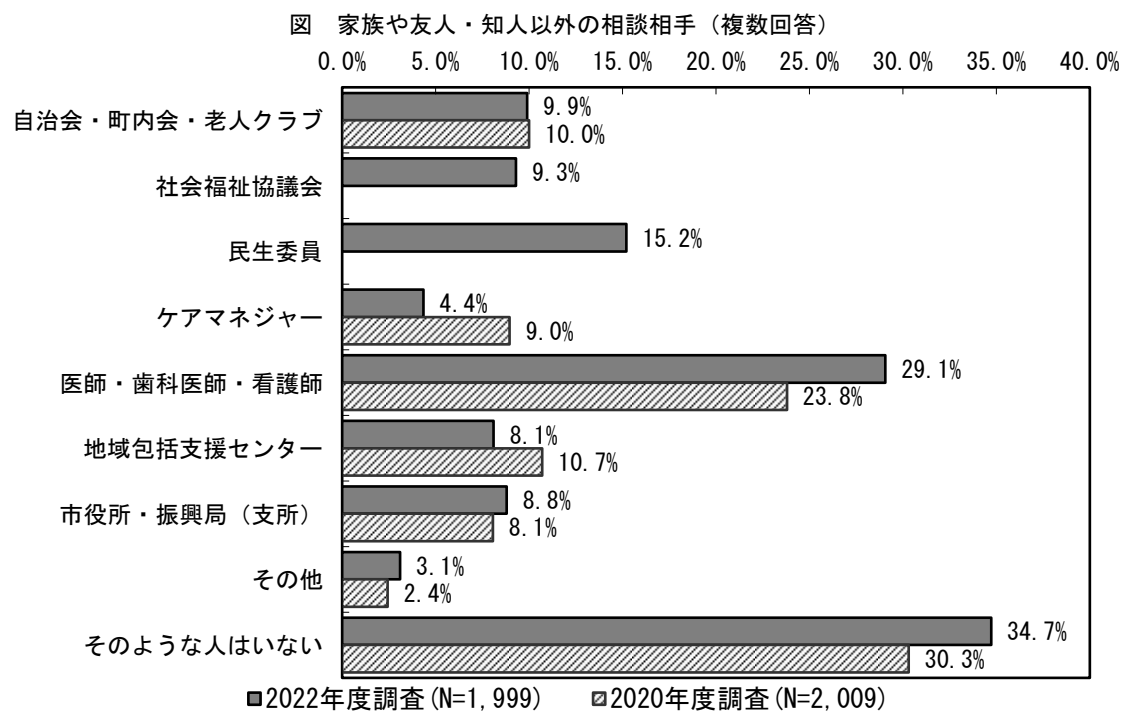
■ある ■思いつかない □無回答

■家族や友人・知人以外の相談相手

あなたが、家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。（あてはまるものすべてに○）

家族や友人・知人以外の相談相手についてみると、「そのような人はいない」（34.7％）が最も多く、次いで「医師・歯科医師・看護師」（29.1％）、「民生委員」（15.2％）となっています。

前回調査と比較すると、「医師・歯科医師・看護師」が5.3ポイント高くなっています。



※「社会福祉協議会」、「民生委員」は、前回調査では「社会福祉協議会・民生委員」という選択肢でした（前回調査では19.7％）。

3 認知症について

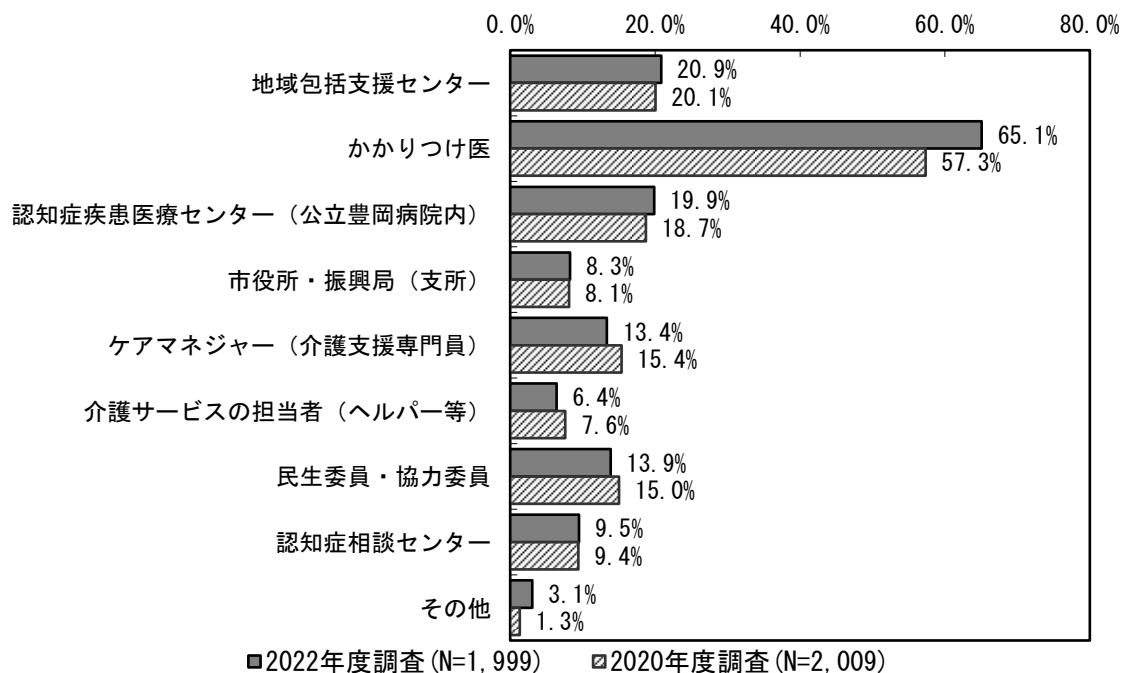
■自分や身近な人に認知症の疑いがある時の相談先

あなたやあなたの身近な人に認知症の疑いがある時に、どのような機関・人に相談しますか。(あてはまるものすべてに○)

自分や身近な人に認知症の疑いがある時の相談先についてみると、「かかりつけ医」(65.1%)が最も多く、次いで「地域包括支援センター」(20.9%)、「認知症疾患医療センター(公立豊岡病院内)」(19.9%)となっています。

前回調査と比較すると、「かかりつけ医」が7.8ポイント高くなっています。

図 自分や身近な人に認知症の疑いがある時の相談先(複数回答)



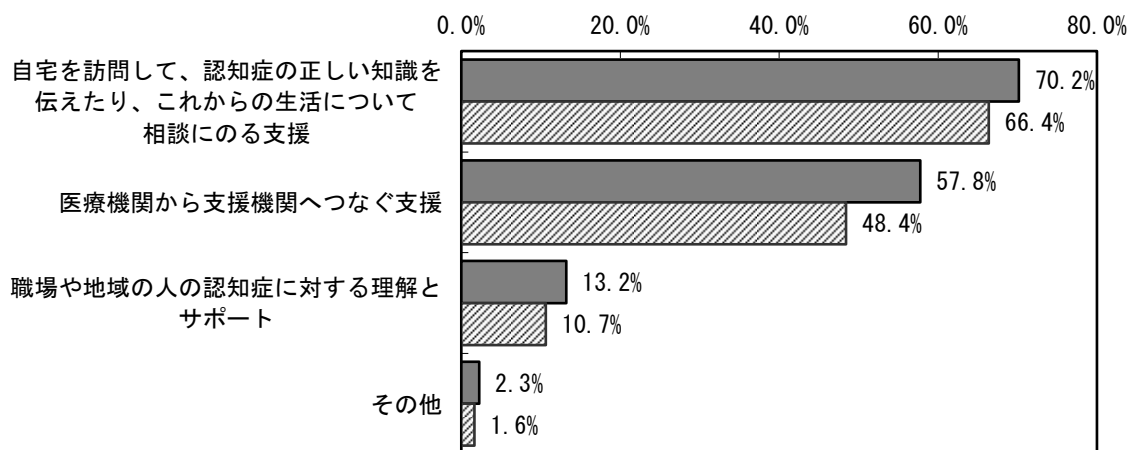
■認知症と診断された直後に欲しい支援

あなたやあなたの家族が認知症と診断された直後に、あなたは、どのような支援があればいいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

認知症と診断された直後に欲しい支援についてみると、「自宅を訪問して、認知症の正しい知識を伝えたり、これからの生活について相談にのる支援」（70.2%）が最も多く、次いで「医療機関から支援機関へつなぐ支援」（57.8%）、「職場や地域の人の認知症に対する理解とサポート」（13.2%）となっています。

前回調査と比較すると、「医療機関から支援機関へつなぐ支援」が9.4ポイント高くなっています。

図 認知症と診断された直後に欲しい支援（複数回答）



■ 2022年度調査 (N=1,999) ■ 2020年度調査 (N=2,009)

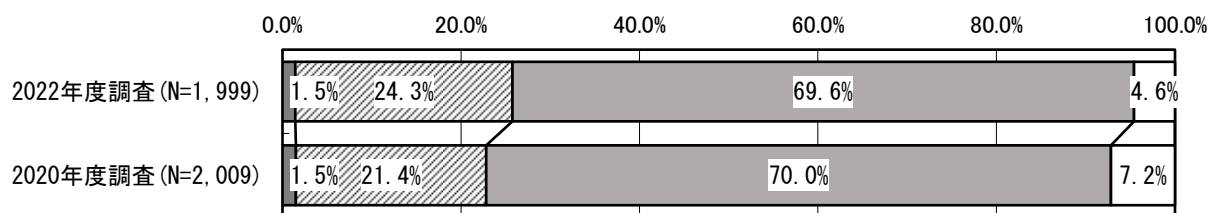
■認知症カフェの認知度

あなたは、認知症カフェを知っていますか。（1つに○）

認知症カフェの認知度についてみると、「知らない」（69.6%）が最も多くなっています。認知度（「知っているし、参加したことがある」と「知っているけど参加したことはない」の合計）は25.8%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はありません。

図 認知症カフェの認知度



■ 知っているし、参加したことがある ■ 知っているけど参加したことはない
 □ 知らない □ 無回答

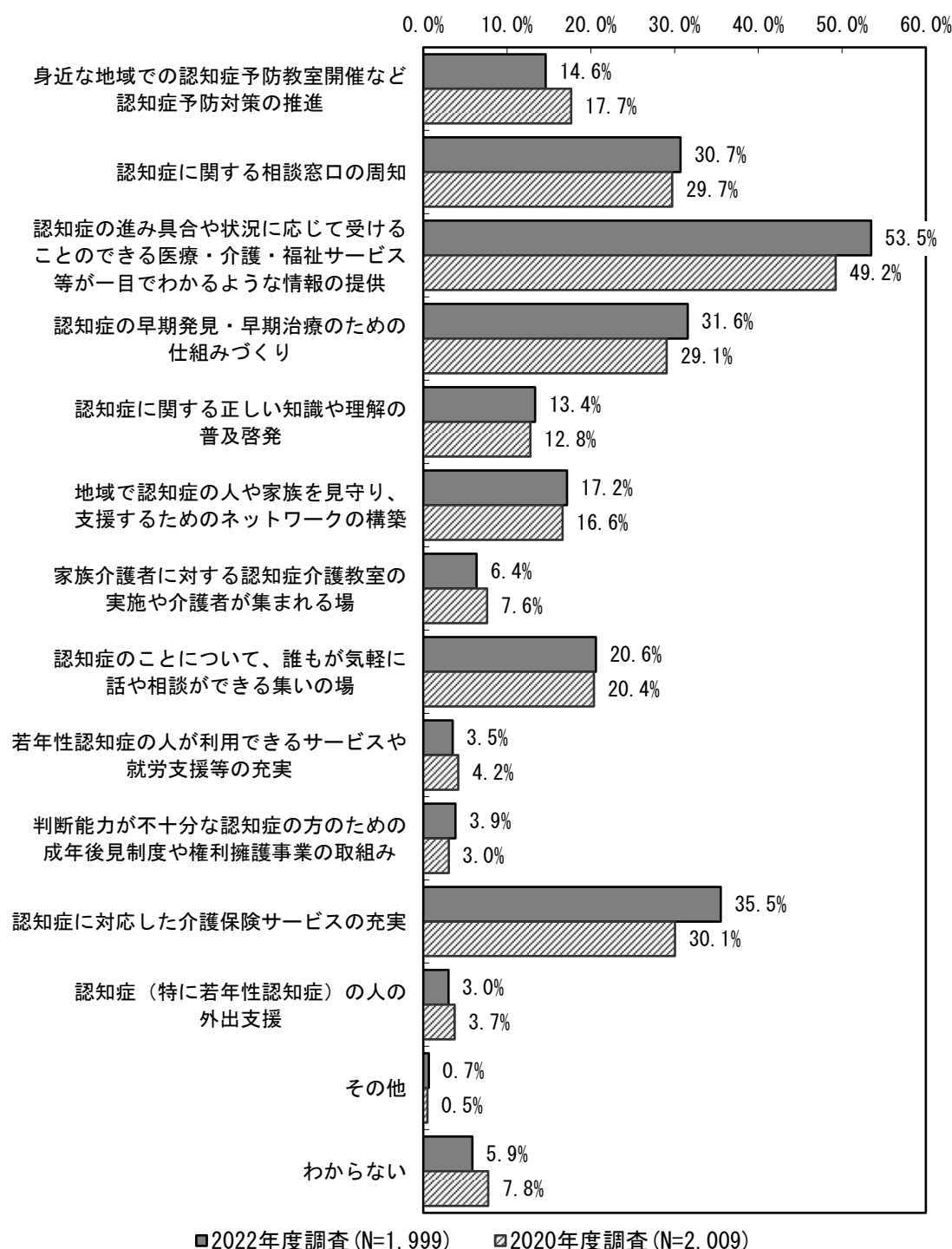
■市が認知症施策として優先して取り組むべきもの

認知症になっても住み慣れた地域で生活を送るため、市が取り組むものとして、あなたは、次のうちどれを優先して充実すべきとお考えですか。（3つまでに○）

市が認知症施策として優先して取り組むべきものについてみると、「認知症の進み具合や状況に応じて受けることのできる医療・介護・福祉サービス等が一目でわかるような情報の提供」（53.5%）が最も多く、次いで「認知症に対応した介護保険サービスの充実」（35.5%）、「認知症の早期発見・早期治療のための仕組みづくり」（31.6%）となっています。

前回調査と比較すると、「認知症に対応した介護保険サービスの充実」が 5.4 ポイント高くなっています。

図 市が認知症施策として優先して取り組むべきもの（3つ以内で複数回答）



4 介護保険サービスや高齢者福祉サービスについて

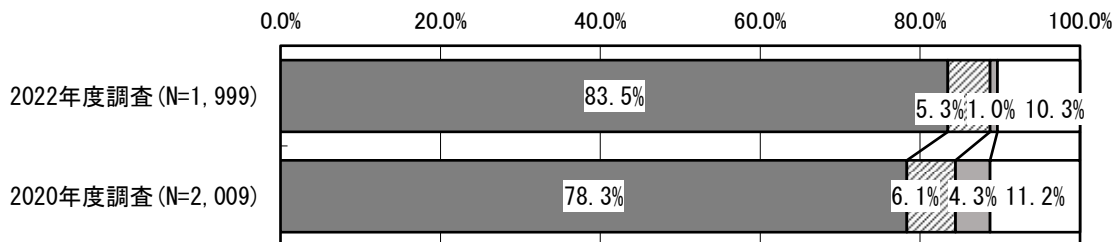
■普段の生活での介護・介助の必要性

あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。(1つに○)

普段の生活での介護・介助の必要性についてみると、「介護・介助は必要ない」(83.5%)が最も多く、次いで「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」(5.3%)、「現在、何らかの介護を受けている」(1.0%)となっています。

前回調査と比較すると、「介護・介助は必要ない」が5.2ポイント高くなっています。

図 普段の生活での介護・介助の必要性



- 介護・介助は必要ない
- ▨何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない
- 現在、何らかの介護を受けている
- 無回答

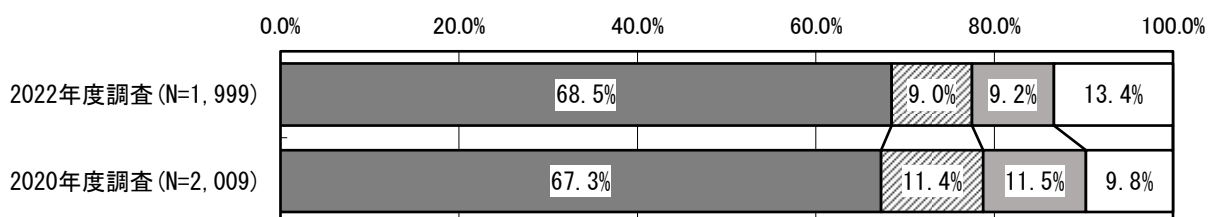
■誰かの介護・介助をしているか

あなたは、普段どなたかの介護・介助をしていますか。(1つに○)

誰かの介護・介助をしているかについてみると、「介護・介助はしていない」(68.5%)が最も多く、次いで「現在、何らかの介護・介助をしている」(9.2%)、「以前は介護・介助をしていたが、現在はしていない」(9.0%)となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はありません。

図 誰かの介護・介助をしているか

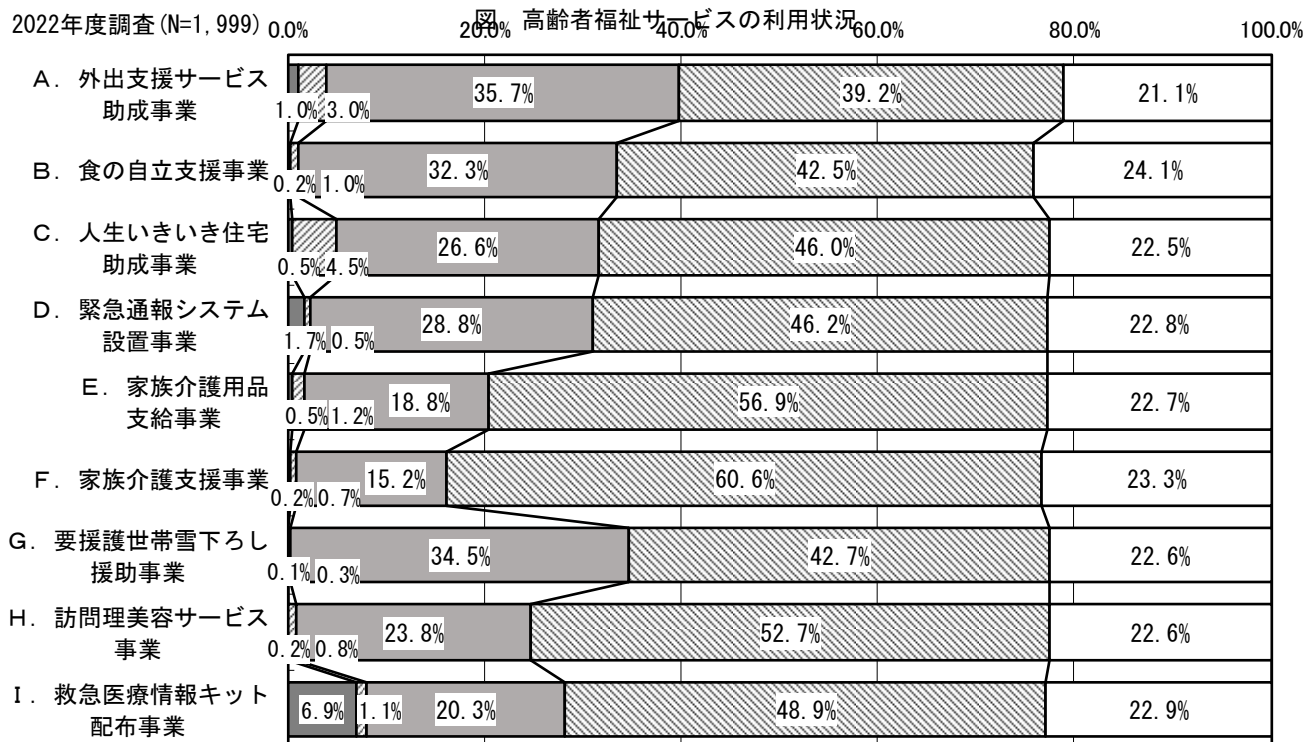


- 介護・介助はしていない
- ▨以前は介護・介助をしていたが、現在はしていない
- 現在、何らかの介護・介助をしている
- 無回答

■高齢者福祉サービスの利用状況と今後の利用意向

市では、介護保険サービス以外に次のような高齢者福祉サービスを行っています。以下の各サービスの利用状況、今後の利用意向についておたずねします。（A～Iの「利用状況」「利用意向」ごとに、それぞれ1つずつ○）

高齢者福祉サービスの利用状況をみると、いずれのサービスも「知らない」が最も多くなっています。「利用している」または「利用したことがある」の合計はいずれのサービスも1割未満で、「I. 救急医療情報キット配布事業」（8.0%）が最も多くなっています。



■利用している ■利用したことがある ■知っているが利用していない ■知らない □無回答

5 在宅医療について

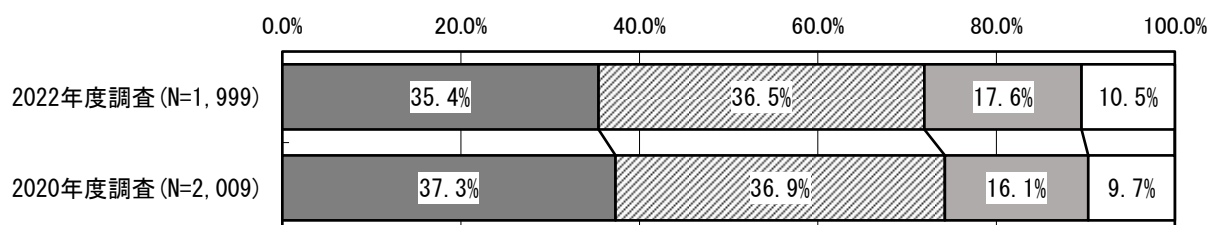
■在宅医療の認知度

あなたは、「在宅医療」について知っていますか。(1つに○)

在宅医療の認知度についてみると、「聞いたことはある」(36.5%)が最も多く、次いで「知っている」(35.4%)、「知らない」(17.6%)となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はありません。

図 在宅医療の認知度



■知っている ■聞いたことはある ■知らない □無回答

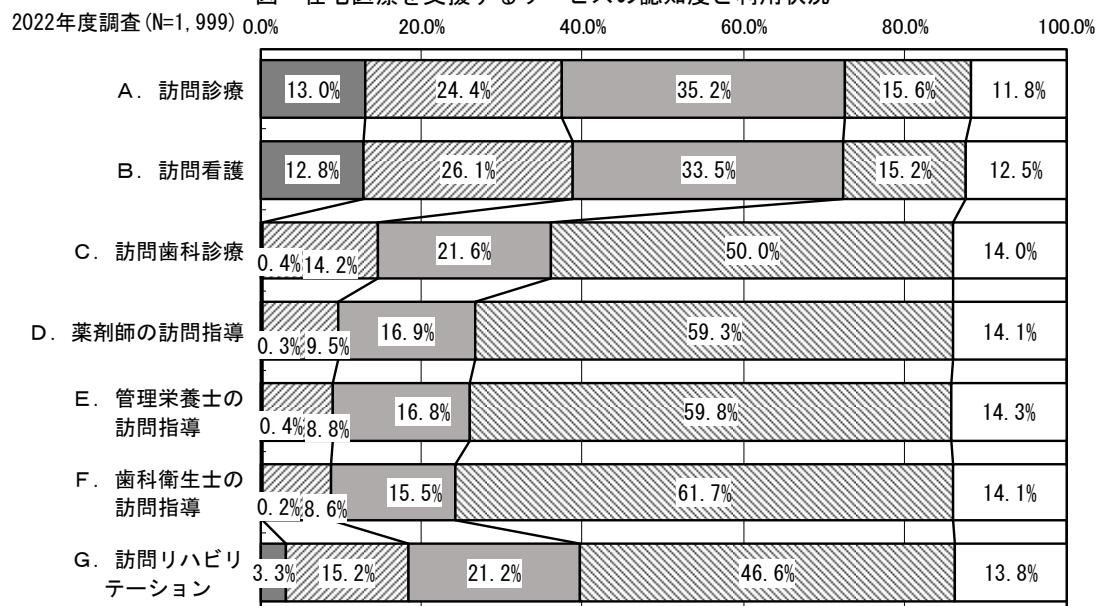
■在宅医療を支援するサービスの認知度と利用状況

あなたは、在宅医療を支える仕組みとして、以下のようなサービスがあることを知っていますか。また、あなたもしくはあなたの家族が利用されたことはありますか。(A～Gについて、それぞれ1つに○)

在宅医療を支える仕組みについてみると、「A. 訪問診療 (医師の訪問)」と「B. 訪問看護 (看護師の訪問)」は「聞いたことはあるが、内容は知らない」が最も多く、ともに3割以上となっています。それ以外の項目は「知らない」が最も多く、いずれも4割以上となっています。「利用したことがある」は「A. 訪問診療 (医師の訪問)」が13.0%、「B. 訪問看護 (看護師の訪問)」が12.8%となっており、それ以外の項目は1割未満となっています。

前回調査と比較すると、「E. 管理栄養士の訪問指導」、「F. 歯科衛生士の訪問指導」、「G. 訪問リハビリテーション (リハビリスタッフの訪問)」は「知らない」が5ポイント以上高くなっています。

図 在宅医療を支援するサービスの認知度と利用状況



■利用したことがある ■利用したことはないが、内容は知っている
 ■聞いたことはあるが、内容は知らない ■知らない
 □無回答

■かかりつけ医等の有無

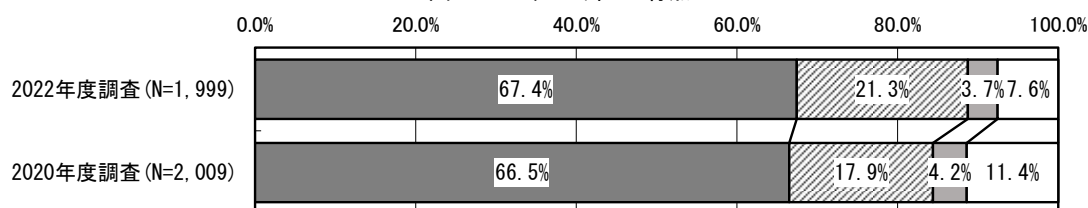
あなたには、

- ・健康状態や病気のことを相談する身近な「かかりつけ医」がいますか。
- ・歯の状態を診てもらったり相談したりできる「かかりつけ歯科医」がいますか。
- ・お薬のことを相談できる「かかりつけ薬局」がありますか。

かかりつけ医等の有無についてみると、「かかりつけ医がいる」が 67.4%、「かかりつけ歯科医がいる」が 52.0%、「かかりつけ薬局がある」が 39.5%となっています。

前回調査と比較すると、いずれも大きな差はありません。

図 かかりつけ医の有無



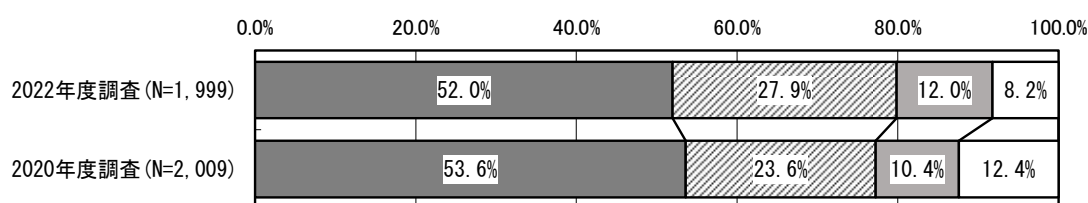
■かかりつけ医がいる

▨かかりつけ医はいないが、行く医療機関はだいたい決まっている

■かかりつけ医や、決まって行く医療機関はない

□無回答

図 かかりつけ歯科医の有無



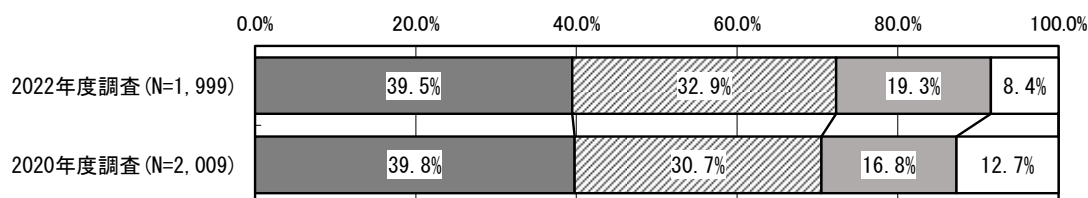
■かかりつけ歯科医がいる

▨かかりつけ歯科医はいないが、行く歯科医院はだいたい決まっている

■かかりつけ歯科医や、決まって行く歯科医院はない

□無回答

図 かかりつけ薬局の有無



■かかりつけ薬局がある

▨かかりつけ薬局はないが、行く薬局はだいたい決まっている

■かかりつけ薬局や、決まって行く薬局はない

□無回答

■高齢期に医療や介護が必要になった際の希望

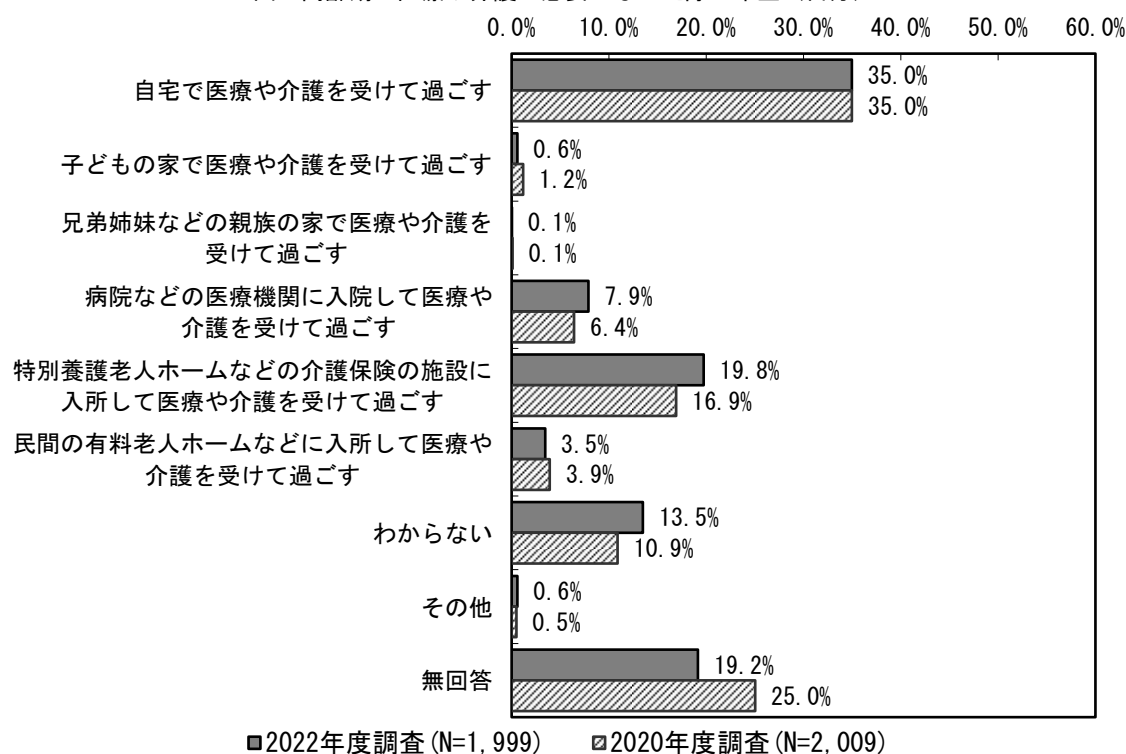
あなた自身が、高齢期に、医療や介護が必要になった時、どこで過ごしたいですか。また、ご家族が同様の時、どこで過ごしてもらいたいか、あなたの考えをお聞かせください。それぞれあてはまる番号1つに○をつけてください。

自分が高齢期に医療や介護が必要になった際の希望についてみると、「自宅で医療や介護を受けて過ごす」(35.0%)が最も多く、次いで「特別養護老人ホームなどの介護保険の施設に入所して医療や介護を受けて過ごす」(19.8%)、「わからない」(13.5%)となっています。

家族が高齢期に医療や介護が必要になった際の希望についてみると、「自宅で医療や介護を受けて過ごす」(24.3%)が最も多く、次いで「特別養護老人ホームなどの介護保険の施設に入所して医療や介護を受けて過ごす」(15.8%)、「わからない」(12.0%)となっています。

前回調査と比較すると、いずれも大きな差はありません。

図 高齢期に医療や介護が必要になった際の希望（自分）



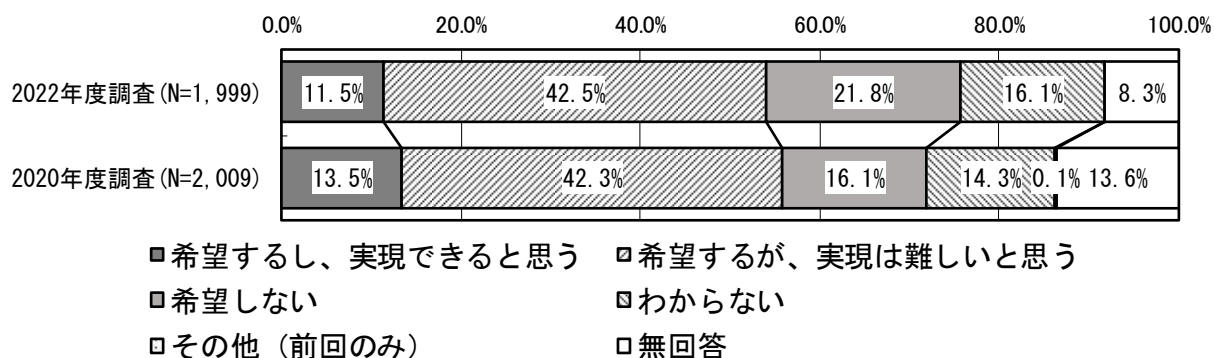
■ 2022年度調査 (N=1,999) ▨ 2020年度調査 (N=2,009)

■自宅での看取りの希望と実現の可能性

あなた自身が、要介護度が重くなったり、仮に治る見込みがない状態となったとき、自宅（子どもの家や兄弟姉妹などの親族の家も含む）で最期まで過ごすことを希望しますか、また、実現可能だと思いますか。（○は1つ）

自宅での看取りの希望と実現可能性についてみると、「希望するが、実現は難しいと思う」（42.5%）が最も多く、次いで「希望しない」（21.8%）、「わからない」（16.1%）となっています。自宅での看取りを希望する人（「希望するし、実現できると思う」と「希望するが、実現は難しいと思う」の合計）は54.0%となっていますが、実現できると思う人は11.5%と少なくなっています。

図 自宅での看取りの希望と実現可能性



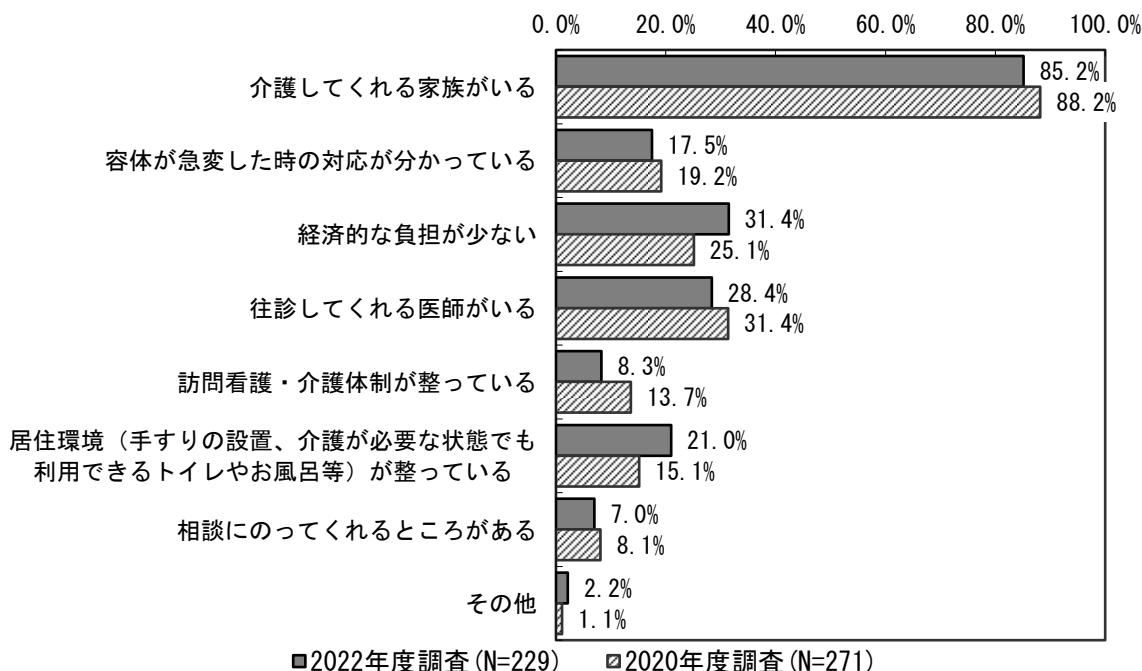
■自宅で最期まで過ごすことができると考える理由、難しいと考える理由

（自宅で最期まで過ごすことができるかという問いに対して）「希望するし、実現できると思う」と考える理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

自宅で最期まで過ごすことができると考える理由についてみると、「介護してくれる家族がいる」（85.2%）が最も多く、次いで「経済的な負担が少ない」（31.4%）、「往診してくれる医師がいる」（28.4%）となっています。

前回調査と比較すると、「経済的な負担が少ない」が6.3ポイント、「居住環境（手すりの設置、介護が必要な状態でも利用できるトイレやお風呂等）が整っている」が5.9ポイント高くなっています。一方、「訪問看護・介護体制が整っている」が5.4ポイント低くなっています。

図 自宅で最期まで過ごすことができると考える理由（複数回答）

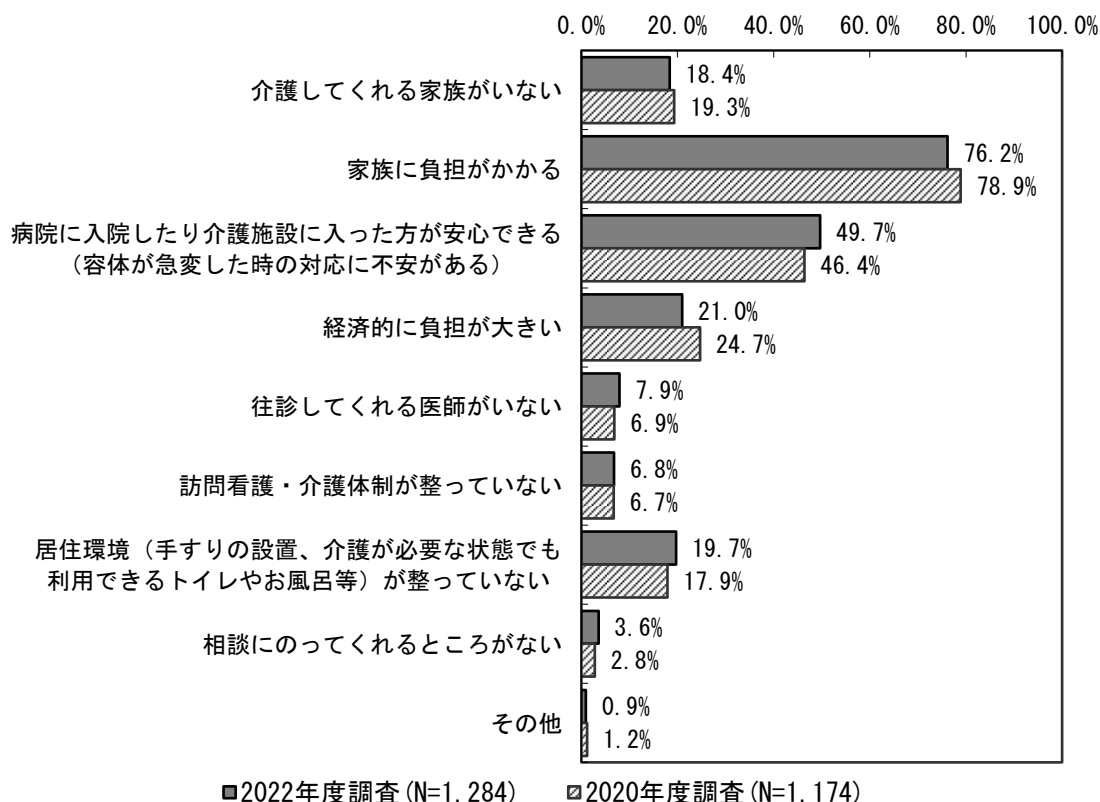


（自宅で最期まで過ごすことができるかという問いに対して）「自宅で過ごすことを希望しない、または過ごすことが難しい」と考える理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

自宅で過ごすことを希望しない、または過ごすことが難しいと思う理由についてみると、「家族に負担がかかる」（76.2%）が最も多く、次いで「病院に入院したり介護施設に入った方が安心できる（容体が急変した時の対応に不安がある）」（49.7%）、「経済的に負担が大きい」（21.0%）となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はありません。

図 自宅で過ごすことを希望しない、または過ごすことが難しいと思う理由（複数回答）



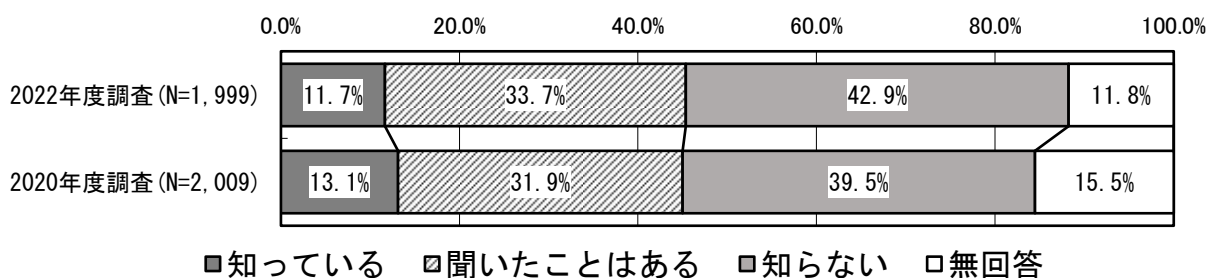
■地域包括支援センターの認知状況

あなたは、地域包括支援センターをご存じですか。（1つに○）

地域包括支援センターの認知状況についてみると、「知らない」（42.9%）が最も多く、次いで「聞いたことはある」（33.7%）、「知っている」（11.7%）となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はありません。

図 地域包括支援センターの認知状況



■知っている ■聞いたことはある ■知らない □無回答

6 その他について

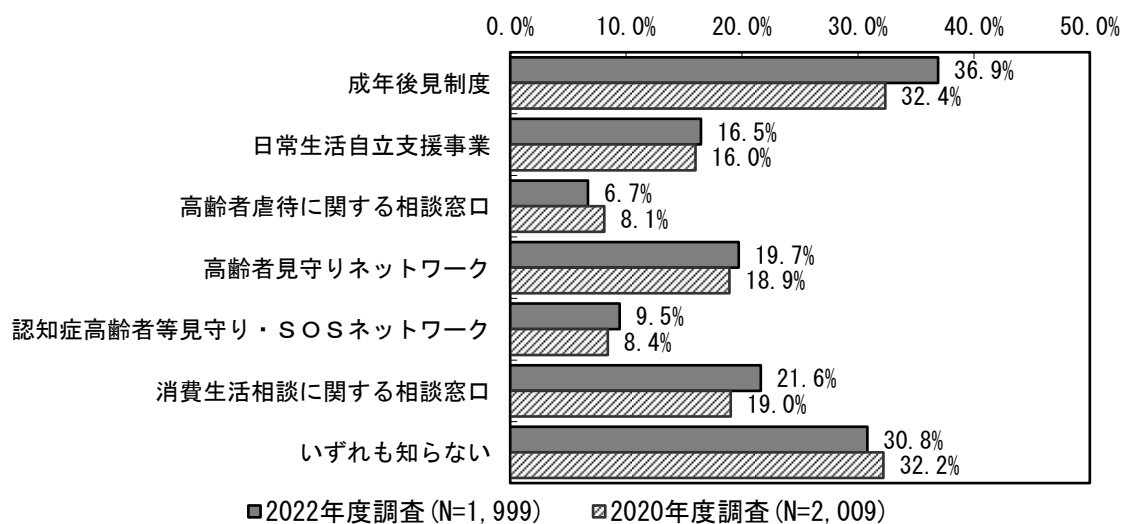
■高齢者の権利や生活を守るための制度やサービスの認知度

高齢者の権利や生活を守るために、以下のようなものがありますが、あなたがお存じのものはありますか。（あてはまるものすべてに○）

高齢者の権利や生活を守るための制度やサービスの認知状況についてみると、「成年後見制度」（36.9%）が最も多く、次いで「いずれも知らない」（30.8%）、「消費生活相談に関する相談窓口」（21.6%）となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はありません。

図 高齢者の権利や生活を守るための制度やサービスの認知状況（複数回答）

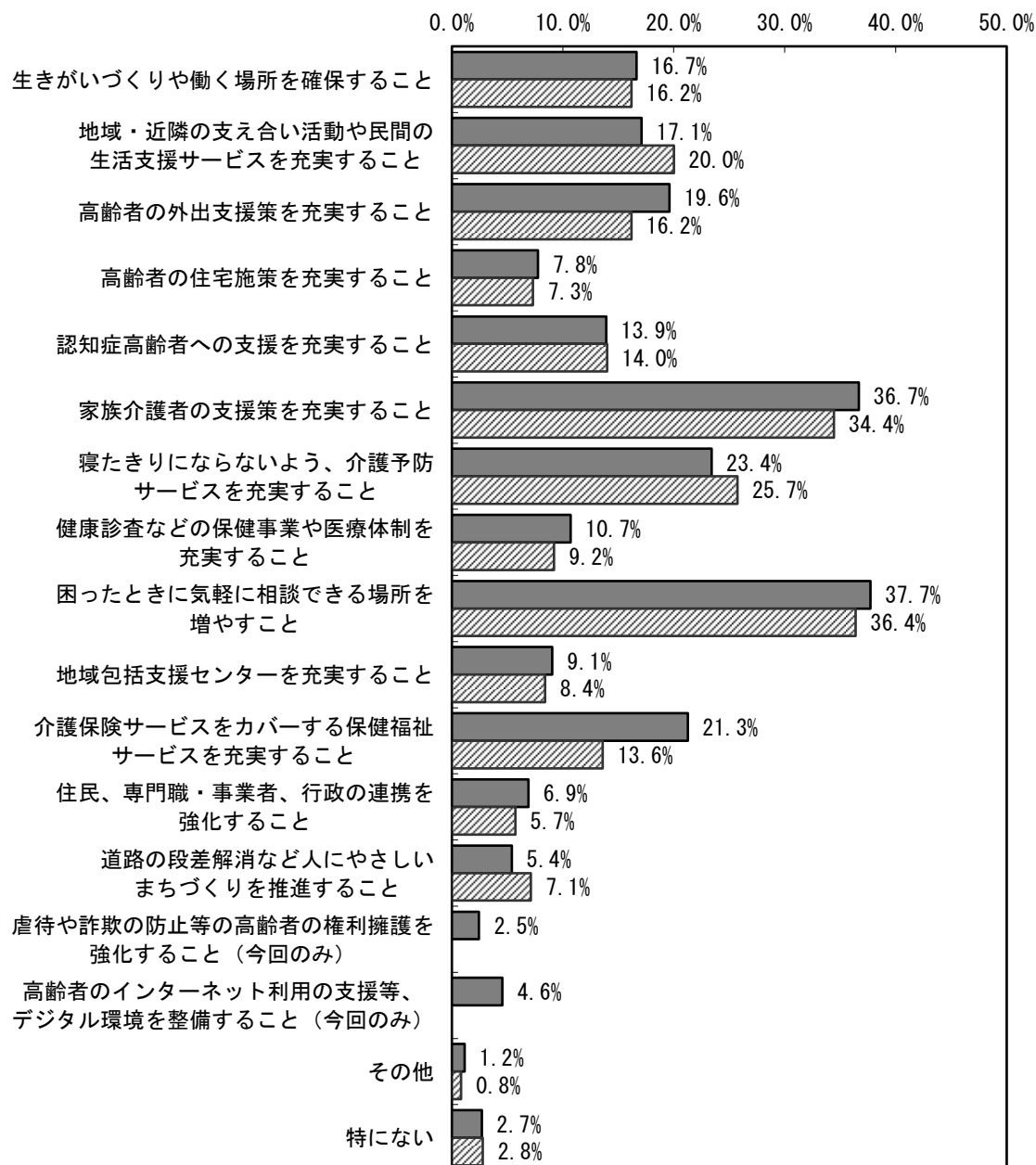


■市が高齢者施策として優先して取り組むべきもの

市が高齢者施策として取り組むものとして、次のうちどれを優先して充実すべきとお考えですか。（3つまでに○）

市が高齢者施策として優先して取り組むべきものについてみると、「困ったときに気軽に相談できる場所を増やすこと」（37.7%）が最も多く、次いで「家族介護者の支援策を充実すること」（36.7%）、「寝たきりにならないよう、介護予防サービスを充実すること」（23.4%）となっています。

図 市が高齢者施策として優先して取り組むべきもの（3つ以内で複数回答）

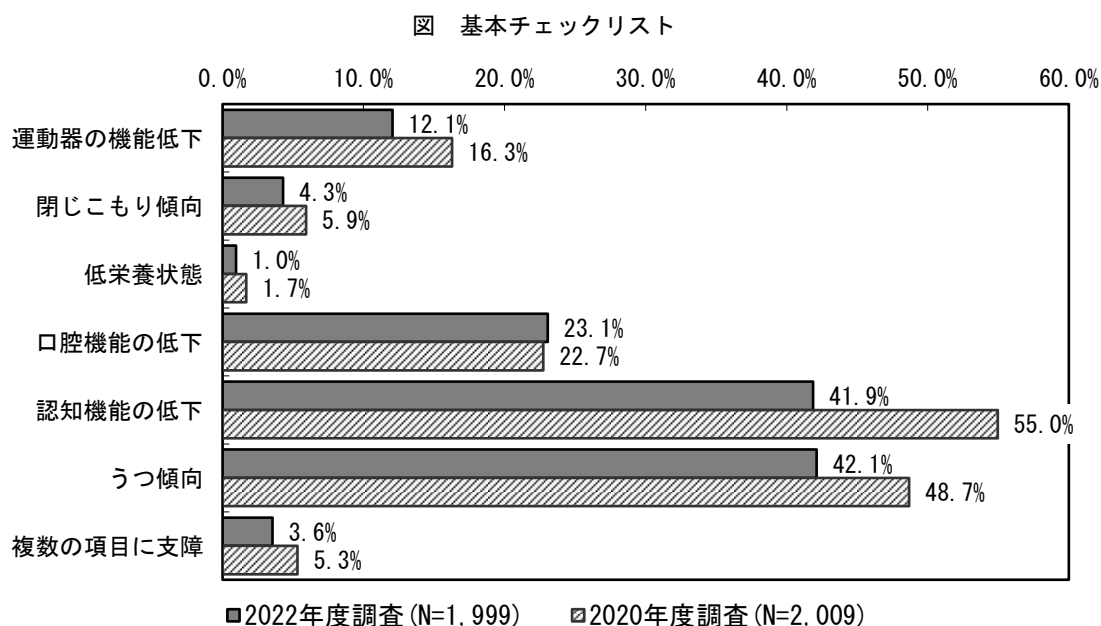


■2022年度調査 (N=1,999) ▨2020年度調査 (N=2,009)

7 基本チェックリスト結果

(1) 基本チェックリスト各項目の該当者

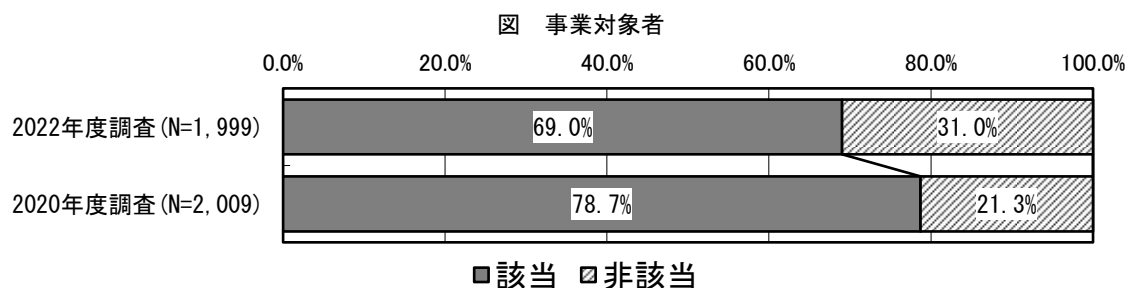
基本チェックリストについてみると、「うつ傾向」(42.1%) が最も多く、次いで「認知機能の低下」(41.9%)、「口腔機能の低下」(23.1%) となっています。



※「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き」の「認知機能の低下」の判定方法が前回から変更されています。
認知機能の低下の前回値は、新しい算出方法では42.5%です

(2) 事業対象者

事業対象者についてみると、「該当」(69.0%)、「非該当」(31.0%) となっています。
前回調査と比較すると、「該当」が9.7ポイント低くなっています。



性別にみると、事業対象者は男性が 66.8%、女性が 70.9%となっています。また、「運動器の機能低下」は女性（15.8%）が男性（7.7%）より 8.1 ポイント多くなっています。

年齢別にみると、「低栄養状態」と「うつ傾向」を除く各項目で年代が高いほど多くなる傾向があります。また、「複数の項目に支障」は 90 歳以上が 17.0%となっています。

居住地域別にみると、但東地域は「認知機能の低下」や「事業対象者」が全体の割合より 4 ポイント以上高く、また、他の地域より多くなっています。

表 性別・年齢別・居住地域別 チェックリスト該当者

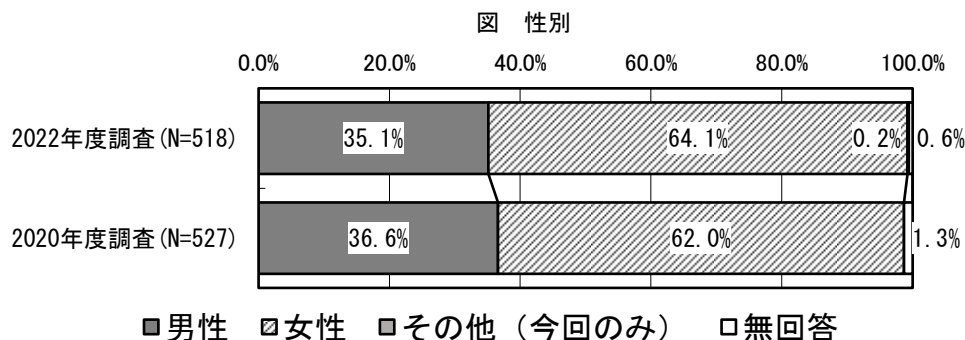
		有効 回答 数	運 動 器 の 機 能 低 下	閉 じ こ も り 傾 向	低 栄 養 状 態	口 腔 機 能 の 低 下	認 知 機 能 の 低 下	う つ 傾 向	複 数 の 項 目 に 支 障	事 業 対 象 者
全体		2,009	12.1%	4.3%	1.0%	23.1%	41.9%	42.1%	3.6%	69.0%
性 別	男性	880	7.7%	4.1%	0.9%	22.1%	42.5%	40.4%	3.4%	66.8%
	女性	1,123	15.8%	4.5%	1.0%	23.9%	41.3%	43.5%	3.7%	70.9%
年 齢	65～69歳	454	4.0%	1.7%	1.5%	17.0%	37.6%	48.0%	0.8%	67.7%
	70～74歳	519	5.4%	2.4%	0.3%	21.5%	40.3%	42.4%	1.0%	69.1%
	75～79歳	418	13.3%	3.4%	0.2%	23.9%	41.3%	35.7%	2.7%	66.1%
	80～84歳	331	20.3%	8.0%	2.1%	28.0%	46.5%	44.1%	7.7%	72.4%
	85～89歳	187	29.8%	9.5%	1.8%	33.3%	53.0%	42.9%	10.7%	76.2%
	90歳以上	92	45.3%	18.9%	0.0%	30.2%	43.4%	30.2%	17.0%	66.0%
居 住 地 域	豊岡地域	969	12.0%	4.3%	1.2%	24.7%	44.0%	42.7%	4.6%	69.7%
	城崎地域	85	10.0%	2.5%	1.3%	21.3%	38.8%	31.3%	1.3%	61.3%
	竹野地域	132	14.4%	5.3%	0.0%	21.2%	43.2%	39.4%	3.8%	68.9%
	日高地域	404	10.4%	4.4%	1.0%	20.0%	37.7%	43.6%	2.6%	68.1%
	出石地域	259	14.0%	3.8%	0.8%	22.6%	39.2%	41.5%	1.9%	69.1%
	但東地域	144	12.0%	6.0%	0.0%	23.9%	46.2%	44.4%	3.4%	73.5%

第3章 介護・在宅医療意向調査結果

1 属性

■性別

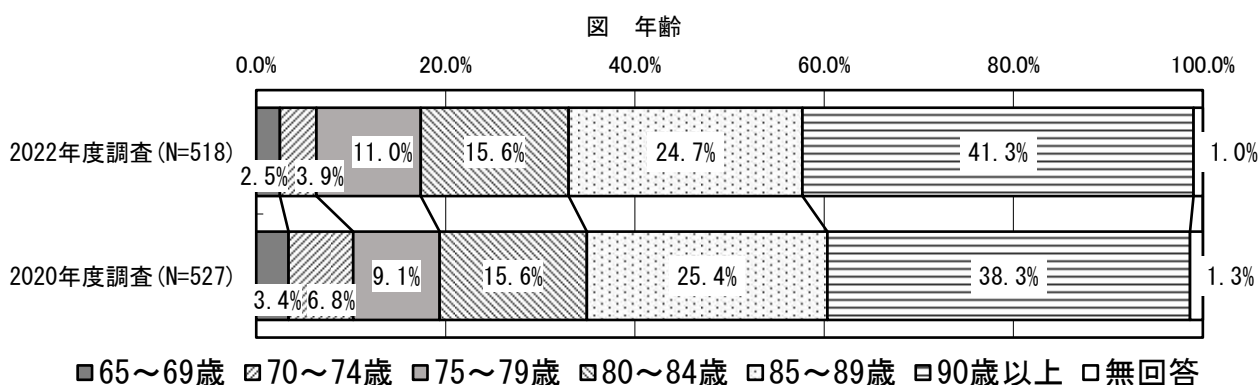
性別についてみると、「女性」が64.1%、「男性」が35.1%となっています。



■年齢

年齢についてみると、「90歳以上」(41.3%)が最も多く、次いで「85～89歳」(24.7%)、「80～84歳」(15.6%)となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はありません。



性別にみると、男女ともに「90歳以上」が最も多く、女性では50.3%となっています。

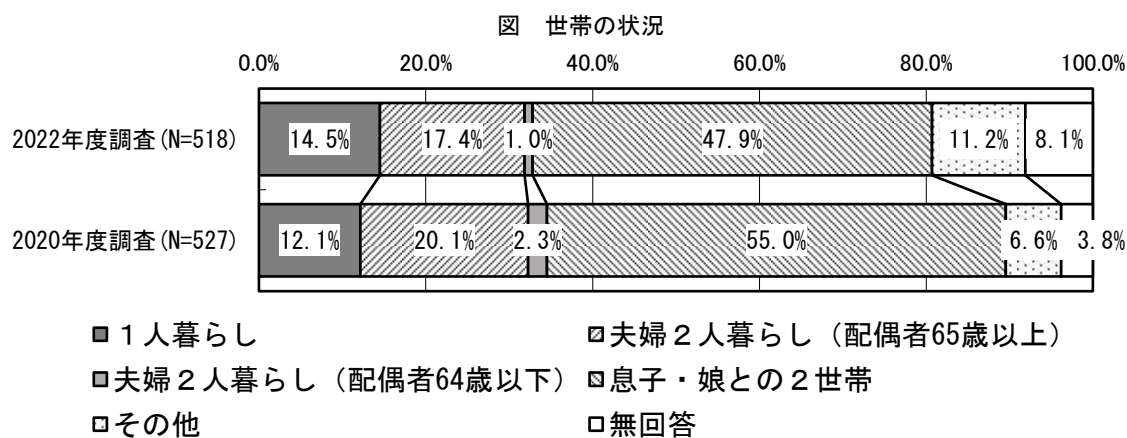
表 性別 年齢

	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	無回答	合計
男性	8	13	33	39	42	46	1	182
	4.4%	7.1%	18.1%	21.4%	23.1%	25.3%	0.5%	100.0%
女性	5	7	24	42	85	167	2	332
	1.5%	2.1%	7.2%	12.7%	25.6%	50.3%	0.6%	100.0%
その他	0	0	0	0	1	0	0	1
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
無回答	0	0	0	0	0	1	2	3
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%	100.0%
合計	13	20	57	81	128	214	5	518
	2.5%	3.9%	11.0%	15.6%	24.7%	41.3%	1.0%	100.0%

■世帯の状況

世帯の状況についてみると、「息子・娘との2世帯」（47.9％）が最も多く、次いで「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」（17.4％）、「1人暮らし」（14.5％）となっています。

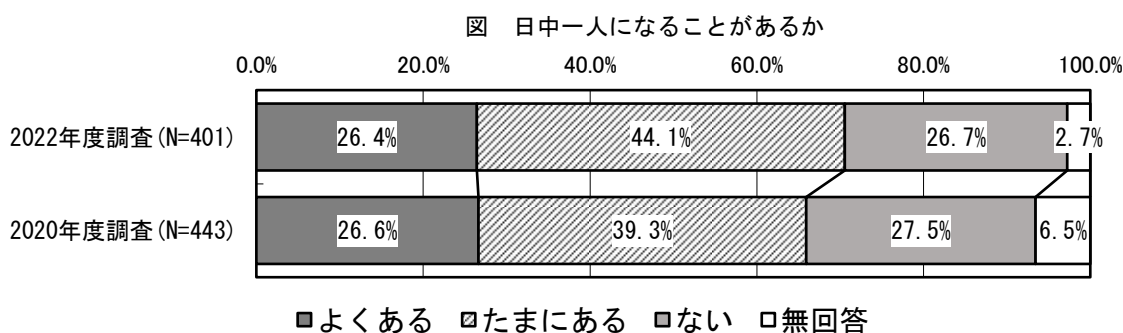
前回調査と比較すると、「息子・娘との2世帯」が7.1ポイント低くなっています。「1人暮らし」は前回調査と同程度となっています。



■日中一人になることがあるか

日中一人になることがあるかについてみると、「たまにある」（44.1％）が最も多く、次いで「ない」（26.7％）、「よくある」（26.4％）となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はありません。



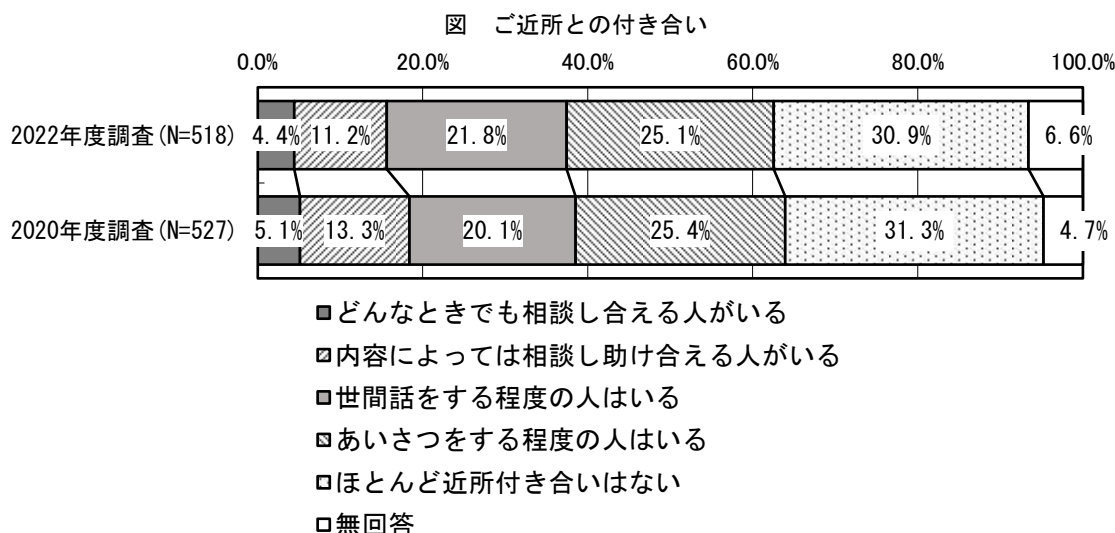
2 日ごろの生活について

■近隣との付き合い

あなたは、ご近所の人とどの程度のお付き合いをされていますか。（1つに○）

ご近所との付き合いについてみると、「ほとんど近所付き合いはない」（30.9%）が最も多く、次いで「あいさつをする程度の人はいる」（25.1%）、「世間話をする程度の人はいる」（21.8%）となっています。相談し合える人がある人（「どんなときでも相談し合える人がある」と「内容によっては相談し助け合える人がある」の合計）は15.6%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はありません。



居住地域別にみると、相談し合える人がある人（「どんなときでも相談し合える人がある」と「内容によっては相談し助け合える人がある」の合計）は竹野地域（37.0%）が最も多く、次いで日高地域（20.9%）となっています。一方、「ほとんど近所付き合いはない」は出石地域が41.0%となっています。

図 居住地域別 近隣との付き合い

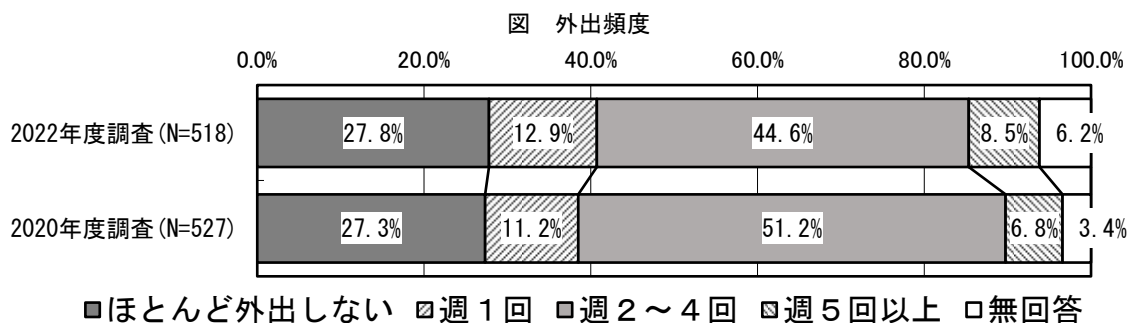
	どんなときでも相談し合える人がある	内容によっては相談し助け合える人がある	世間話をする程度の人はいる	あいさつをする程度の人はいる	ほとんど近所付き合いはない	無回答	合計
豊岡地域	10	26	53	70	85	14	258
	3.9%	10.1%	20.5%	27.1%	32.9%	5.4%	100.0%
城崎地域	1	2	7	4	4	1	19
	5.3%	10.5%	36.8%	21.1%	21.1%	5.3%	100.0%
竹野地域	2	8	4	7	4	2	27
	7.4%	29.6%	14.8%	25.9%	14.8%	7.4%	100.0%
日高地域	7	17	24	26	32	9	115
	6.1%	14.8%	20.9%	22.6%	27.8%	7.8%	100.0%
出石地域	2	3	13	13	25	5	61
	3.3%	4.9%	21.3%	21.3%	41.0%	8.2%	100.0%
但東地域	1	2	12	9	10	1	35
	2.9%	5.7%	34.3%	25.7%	28.6%	2.9%	100.0%
無回答	0	0	0	1	0	2	3
	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	66.7%	100.0%
合計	23	58	113	130	160	34	518
	4.4%	11.2%	21.8%	25.1%	30.9%	6.6%	100.0%

■外出頻度

あなたは、週に1回以上は外出していますか。(1つに○)

外出頻度についてみると、「週2～4回」(44.6%)が最も多く、次いで「ほとんど外出しない」(27.8%)、「週1回」(12.9%)となっています。週に1回以下しか外出しない人(「ほとんど外出しない」と「週1回」の合計)は40.7%となっています。

前回調査と比較すると、「週2～4回」が6.6ポイント低くなっています。

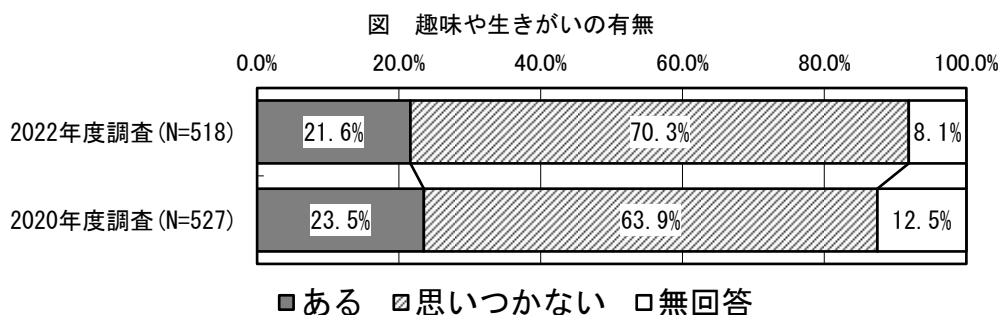


■趣味や生きがいの有無

あなたには、趣味や生きがいとしているもの(こと)がありますか。ある場合は()内に具体的な内容をお書きください。(1つに○)

趣味や生きがいの有無についてみると、「ある」が21.6%となっています。

前回調査と比較すると、「思いつかない」が6.4ポイント高くなっています。



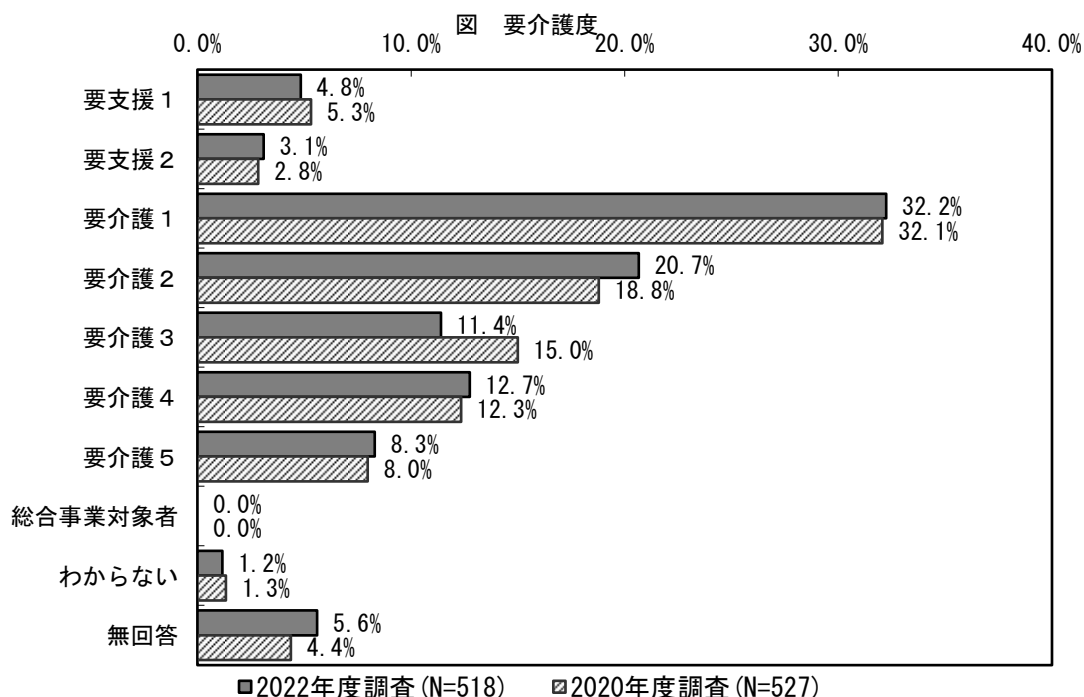
3 介護保険サービスや高齢者福祉サービスについて

■要介護度

あなたの要介護度は次のうちどれですか。（1つに○）

要介護度についてみると、「要介護1」（32.2%）が最も多く、次いで「要介護2」（20.7%）、「要介護4」（12.7%）となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はありません。

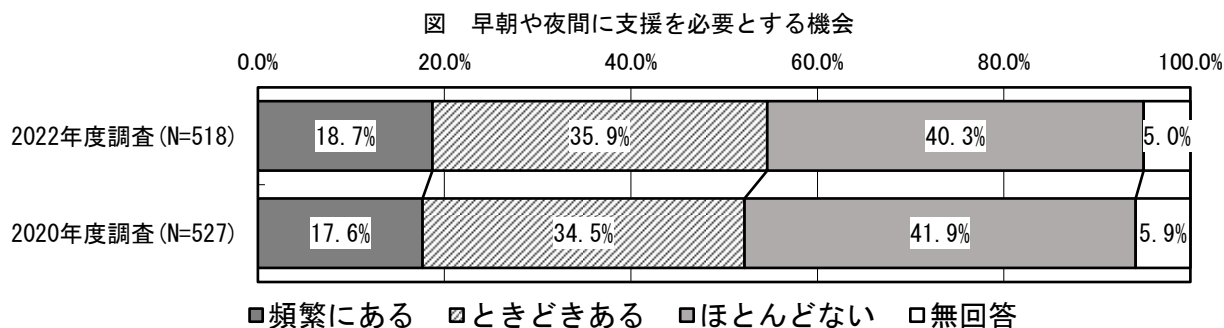


■早朝や夜間に支援を必要とする機会

あなたは、早朝や夜間に支援を必要とすることがありますか。（1つに○）

早朝や夜間に支援を必要とする機会についてみると、「ほとんどない」（40.3%）が最も多く、次いで「ときどきある」（35.9%）、「頻繁にある」（18.7%）となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はありません。



要介護別にみると、「頻繁にある」または「ときどきある」人は要介護度が高くなるほど多くなり、要介護3以上で77.3%となっています。また、要介護3以上は「頻繁にある」も33.3%と多くなっています。

表 要介護度別 早朝や夜間に支援を必要とする機会

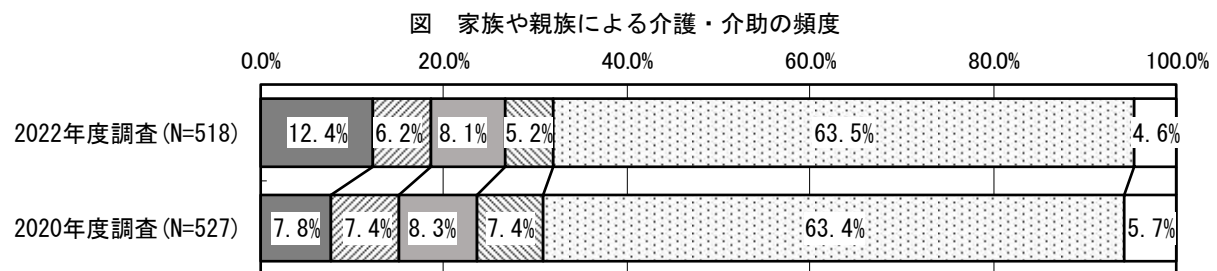
	頻繁にある	ときどきある	ほとんどない	無回答	合計
要支援1・2	3 7.3%	12 29.3%	23 56.1%	3 7.3%	41 100.0%
要介護1・2	36 13.1%	95 34.7%	140 51.1%	3 1.1%	274 100.0%
要介護3以上	56 33.3%	74 44.0%	37 22.0%	1 0.6%	168 100.0%
その他不明	2 5.7%	5 14.3%	9 25.7%	19 54.3%	35 100.0%
合計	97 18.7%	186 35.9%	209 40.3%	26 5.0%	518 100.0%

■家族や親族による介護・介助の頻度

あなたに対して、家族や親族からの介護・介助は、週にどのくらいありますか。同居していない子どもや親族等からの介護・介助も含みます。（1つに○）

家族や親族による介護・介助の頻度についてみると、「ほぼ毎日ある」（63.5%）が最も多く、次いで「ない」（12.4%）、「週に1～2日ある」（8.1%）となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はありません。



- ない
- ▨ 家族・親族の介護はあるが、週に1日より少ない
- ▨ 週に1～2日ある
- ▨ 週に3～4日ある
- ▨ ほぼ毎日ある
- 無回答

4 在宅医療について

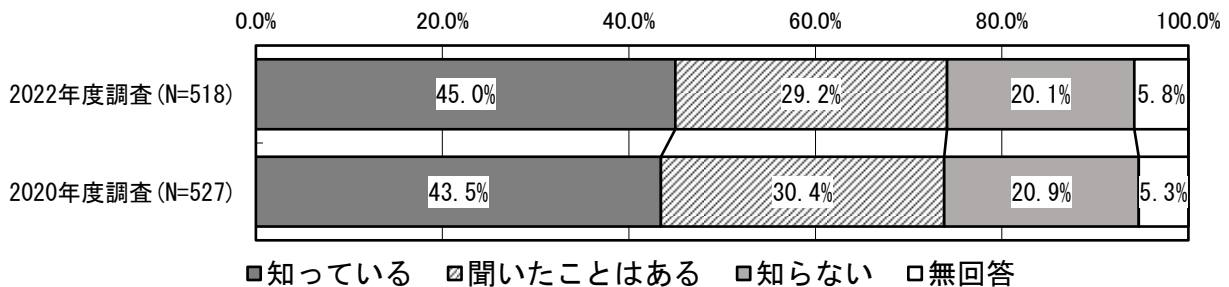
■在宅医療の認知度

あなたは、「在宅医療」について知っていますか。（1つに○）

在宅医療の認知度についてみると、「知っている」（45.0％）が多く、次いで「聞いたことはある」（29.2％）、「知らない」（20.1％）となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はありません。

図 在宅医療の認知度

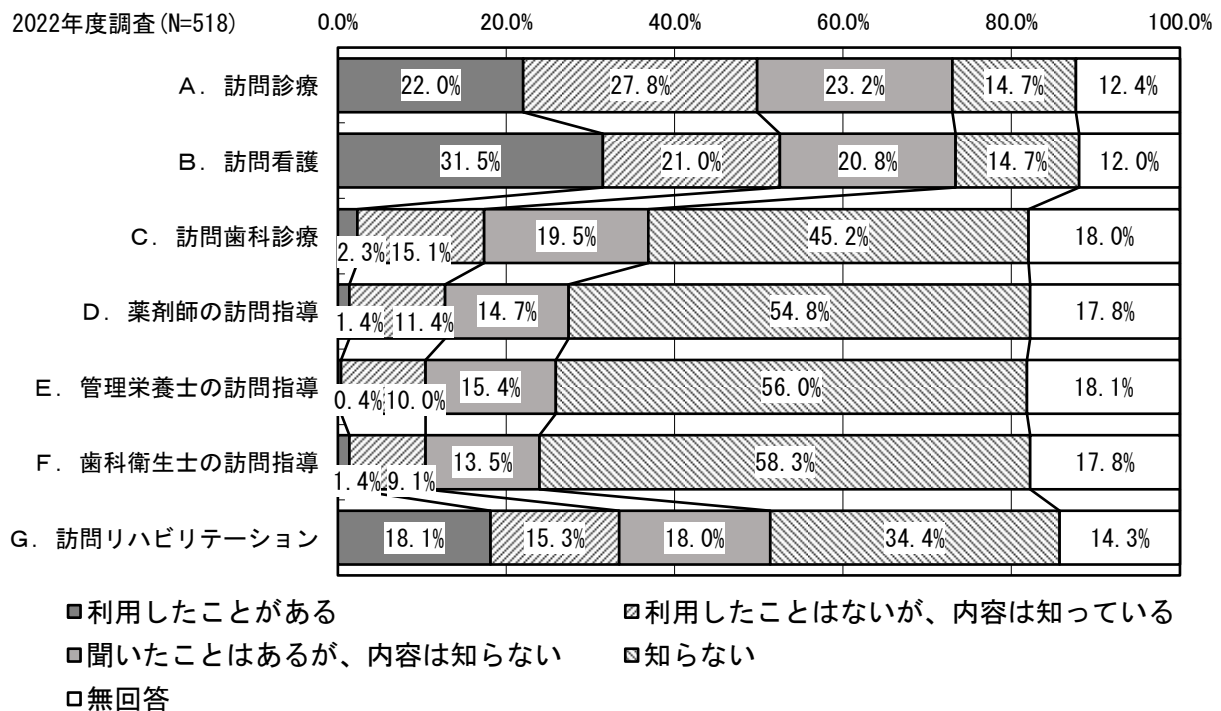


■在宅医療を支援するサービスの認知度と利用状況

あなたは、在宅医療を支える仕組みとして、以下のようなサービスがあることを知っていますか。また、あなたもしくはあなたの家族が利用されたことはありますか。（A～Gについて、それぞれ1つに○）

在宅医療を支える仕組みについてみると、「A. 訪問診療（医師の訪問）」は「利用したことはないが、内容は知っている」（27.8％）、「B. 訪問看護（看護師の訪問）」は「利用したことがある」（31.5％）が最も多くなっています。それ以外の項目は「知らない」が最も多く、いずれも3割以上となっています。

図 在宅医療を支援するサービスの認知度と利用状況



■かかりつけ医等の有無

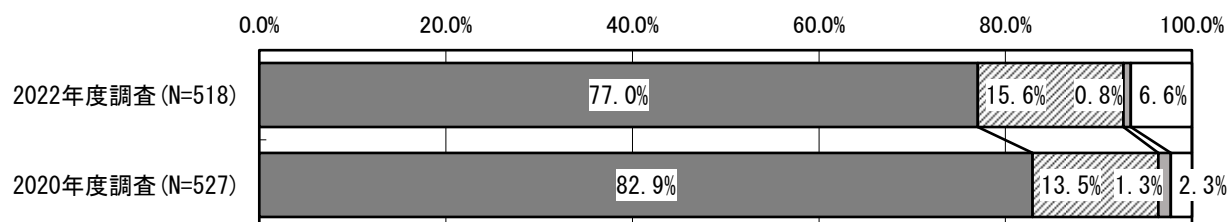
あなたには、

- ・健康状態や病気のことを相談する身近な「かかりつけ医」がいますか。
- ・歯の状態を診てもらったり相談したりできる「かかりつけ歯科医」がいますか。
- ・あなたには、お薬のことを相談できる「かかりつけ薬局」がありますか。

かかりつけ医等の有無をみると、「かかりつけ医がいる」が 77.0%、「かかりつけ歯科医がいる」が 22.0%、「かかりつけ薬局がある」が 46.3%となっています。

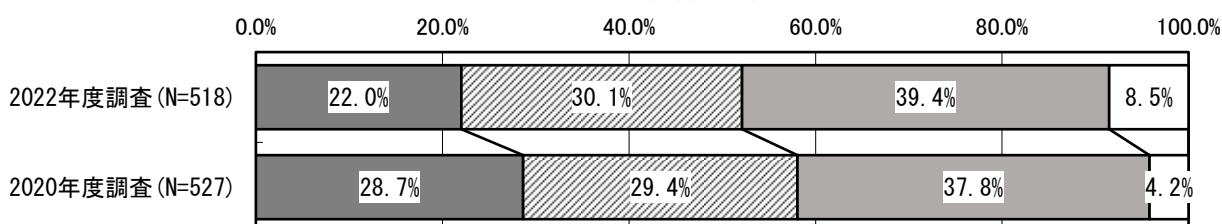
前回調査と比較すると、「かかりつけ医がいる」が 5.9 ポイント、「かかりつけ歯科医がいる」が 6.7 ポイント低くなっています。

図 かかりつけ医の有無



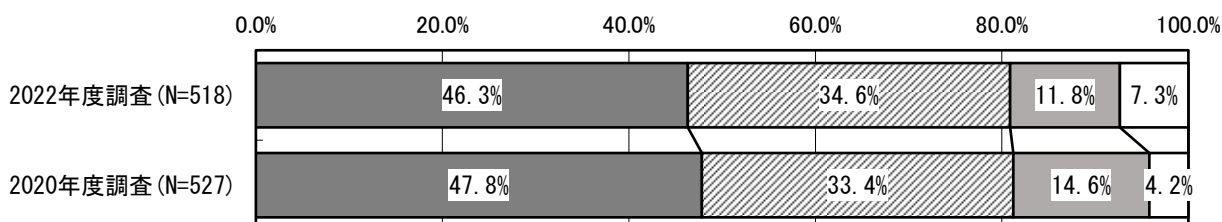
- かかりつけ医がいる
- ▣かかりつけ医はいないが、行く医療機関はだいたい決まっている
- ▣かかりつけ医や、決まって行く医療機関はない
- 無回答

図 かかりつけ歯科医の有無



- かかりつけ歯科医がいる
- ▣かかりつけ歯科医はいないが、行く歯科医院はだいたい決まっている
- ▣かかりつけ歯科医や、決まって行く歯科医院はない
- 無回答

図 かかりつけ薬局の有無



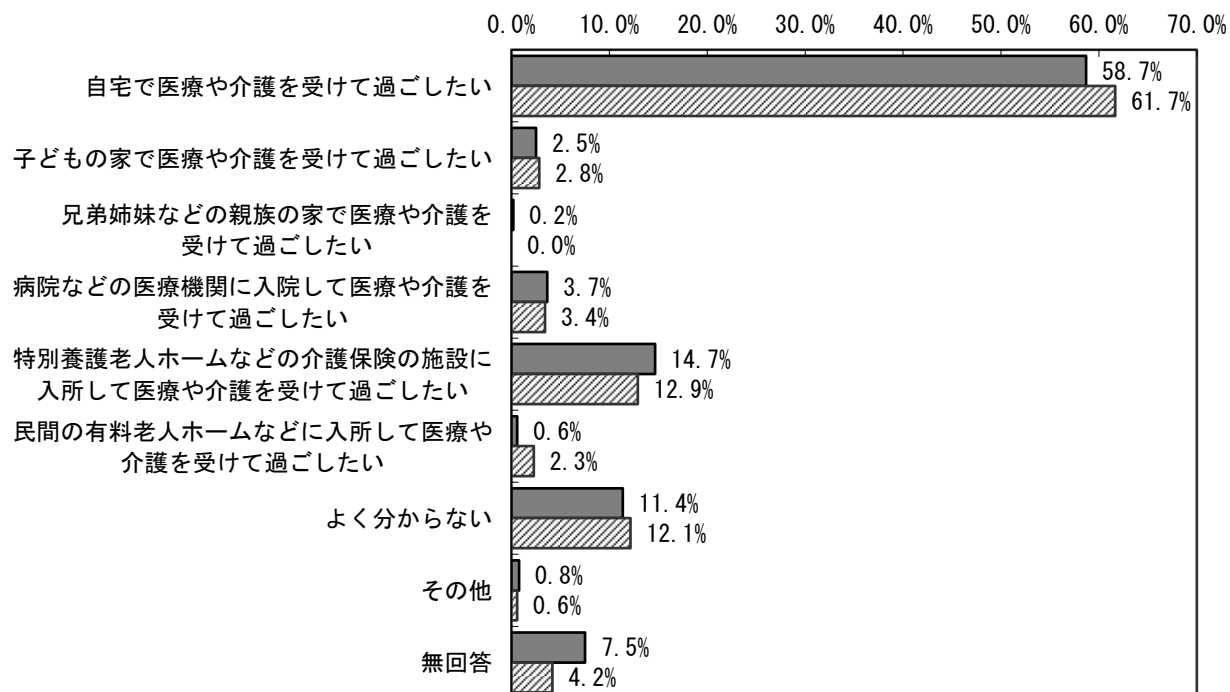
- かかりつけ薬局がある
- ▣かかりつけ薬局はないが、行く薬局はだいたい決まっている
- ▣かかりつけ薬局や、決まって行く薬局はない
- 無回答

■高齢期に医療や介護が必要になった際の希望

あなたは、高齢期に、医療や介護が必要になった時、どこで過ごしたいですか。（1つに○）

高齢期に医療や介護が必要になった際の希望についてみると、「自宅で医療や介護を受けて過ごしたい」（58.7%）が最も多く、次いで「特別養護老人ホームなどの介護保険の施設に入所して医療や介護を受けて過ごしたい」（14.7%）、「よく分からない」（11.4%）となっています。

図 高齢期に医療や介護が必要になった際の希望



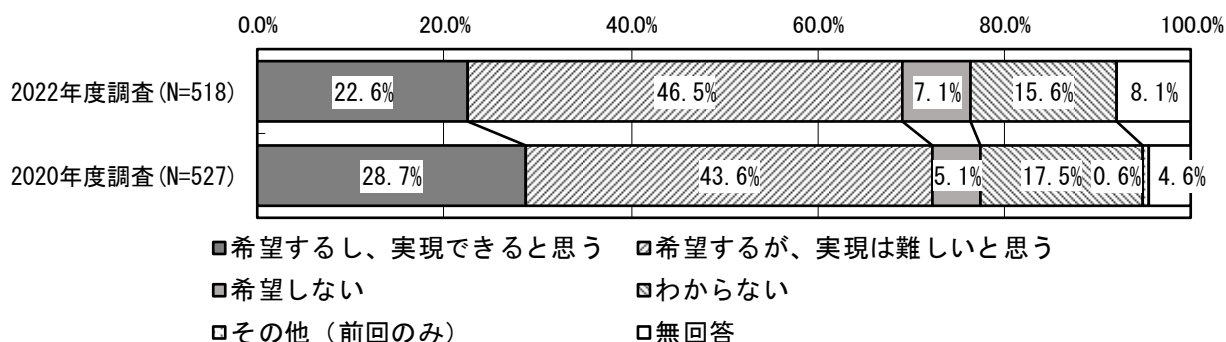
■2022年度調査 (N=518) ▨2020年度調査 (N=527)

■自宅での看取りの希望と実現可能性

あなた自身が、要介護度が重くなったり、仮に治る見込みがなく死期が迫っている状態となったとき、自宅（子どもの家や兄弟姉妹などの親族の家も含む）で最期まで過ごすことを希望しますか、また、実現可能だと思いますか。（1つに○）

自宅での看取りの希望と実現可能性についてみると、「希望するが、実現は難しいと思う」（46.5%）が最も多く、次いで「希望するし、実現できると思う」（22.6%）、「わからない」（15.6%）となっています。自宅での看取りを希望する人（「希望するし、実現できると思う」と「希望するが、実現は難しいと思う」の合計）は69.1%となっています。

図 自宅での看取りの希望と実現可能性



■希望するし、実現できると思う ▨希望するが、実現は難しいと思う
 ■希望しない ▨わからない
 ■その他（前回のみ） ▨無回答

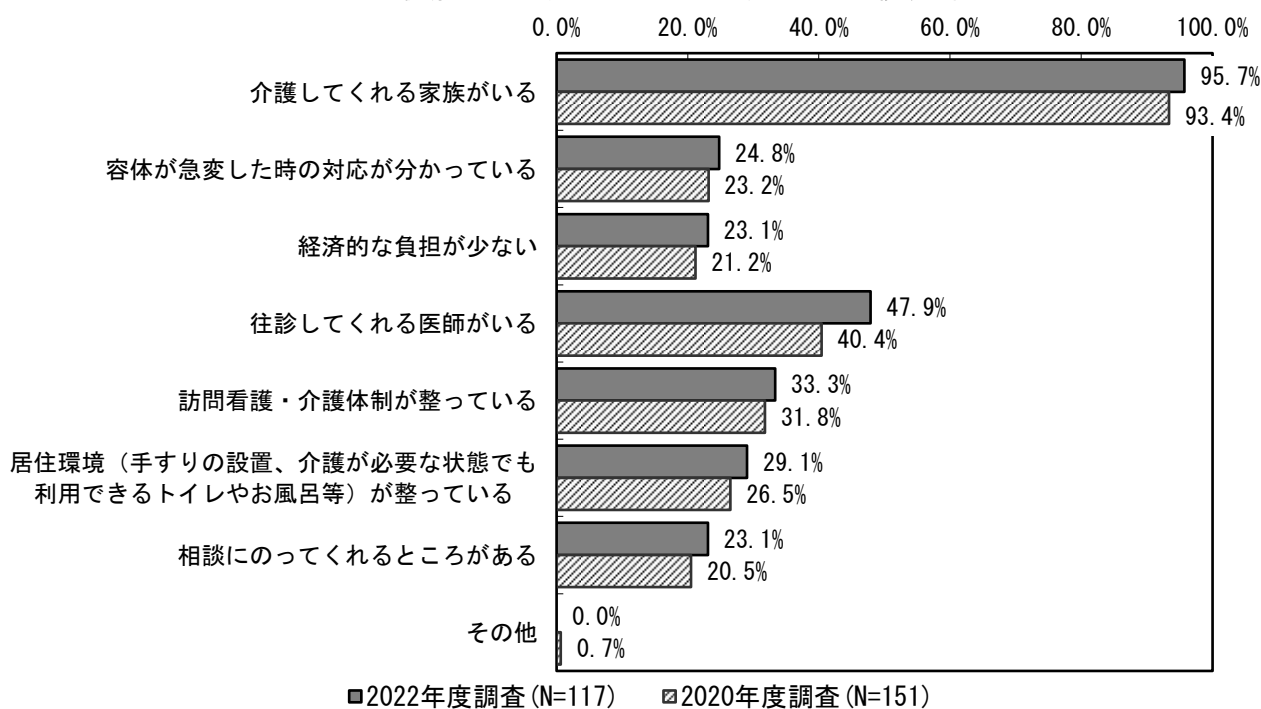
■自宅で最期まで過ごすことができる考える理由、難しいと考える理由

（自宅で最期まで過ごすことができるかという問いに対して）「希望するし、実現できると思う」と考える理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

自宅で最期まで過ごすことができる考える理由についてみると、「介護してくれる家族がいる」（95.7%）が最も多く、次いで「往診してくれる医師がいる」（47.9%）、「訪問看護・介護体制が整っている」（33.3%）となっています。

前回調査と比較すると、「往診してくれる医師がいる」が7.5ポイント高くなっています。

図 自宅で最期まで過ごすことができる考える理由（複数回答）

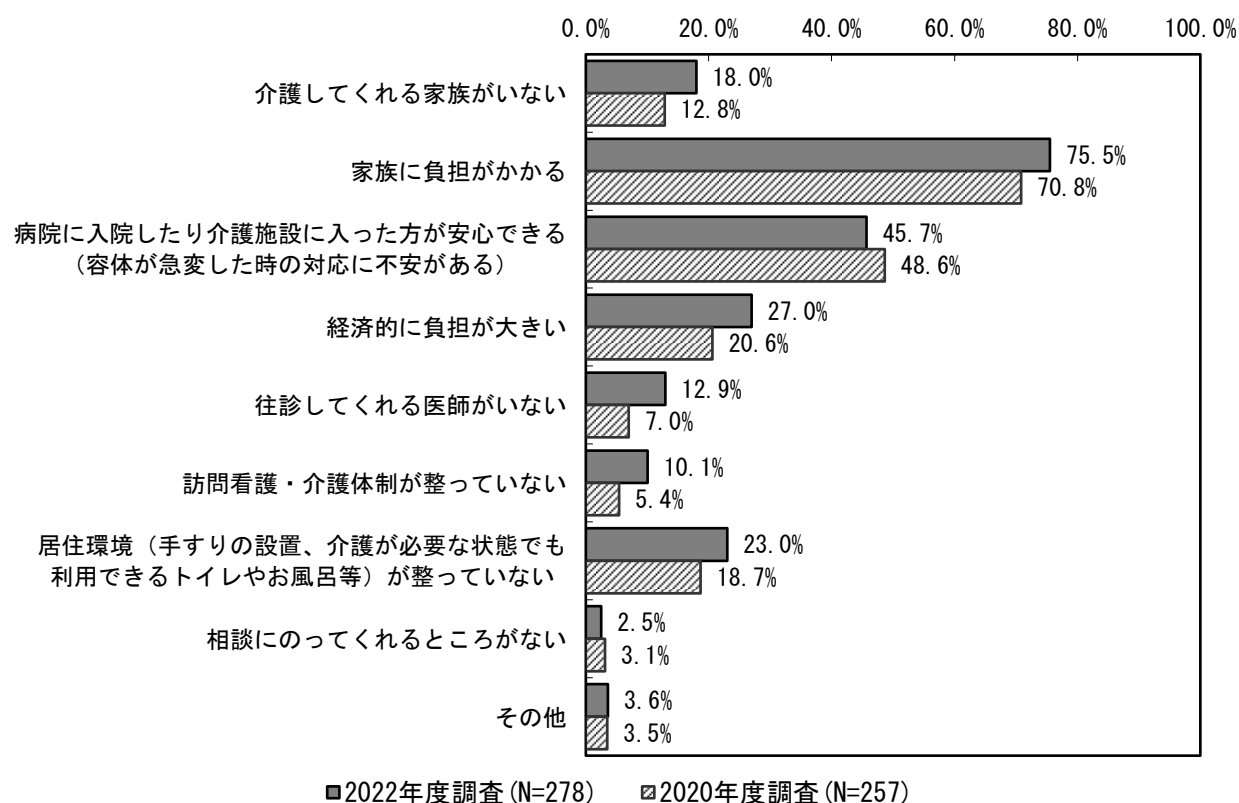


（自宅で最期まで過ごすことができるかという問いに対して）「自宅で過ごすことを希望しない、または過ごすことが難しい」と考える理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

自宅で過ごすことを希望しない、または過ごすことが難しいと思う理由についてみると、「家族に負担がかかる」（75.5%）が最も多く、次いで「病院に入院したり介護施設に入った方が安心できる（容体が急変した時の対応に不安がある）」（45.7%）、「経済的に負担が大きい」（27.0%）となっています。

前回調査と比較すると、「介護してくれる家族がいない」が 5.2 ポイント、「経済的に負担が大きい」が 6.4 ポイント、「往診してくれる医師がいない」が 5.9 ポイント高くなっています。

図 自宅で過ごすことを希望しない、または過ごすことが難しいと思う理由（複数回答）



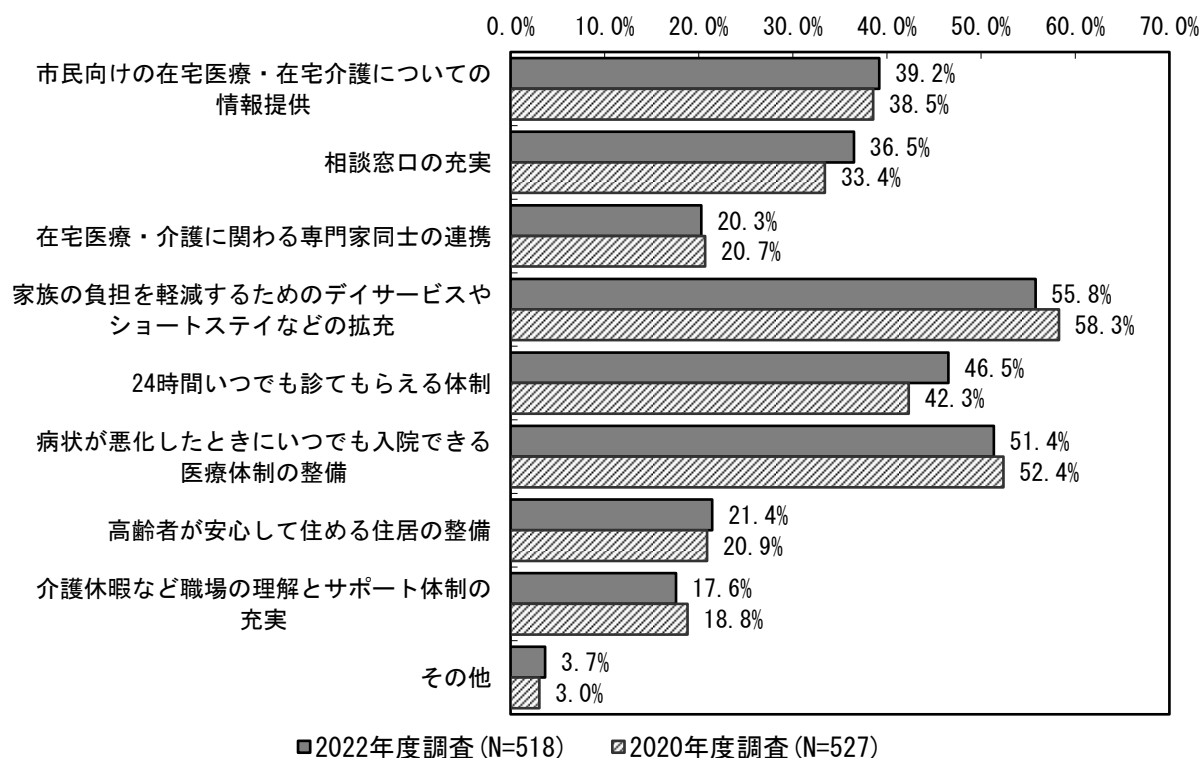
■今後在宅医療や在宅介護が進むために必要なこと

今後、「在宅医療」や「在宅介護」が進むためには、どのようなことが必要と思いますか。（あてはまるものすべてに○）

今後在宅医療や在宅介護が進むために必要なことについてみると、「家族の負担を軽減するためのデイサービスやショートステイなどの拡充」（55.8%）が最も多く、次いで「病状が悪化したときにいつでも入院できる医療体制の整備」（51.4%）、「24時間いつでも診てもらえる体制」（46.5%）となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はありません。

図 今後在宅医療や在宅介護が進むために必要なこと（複数回答）



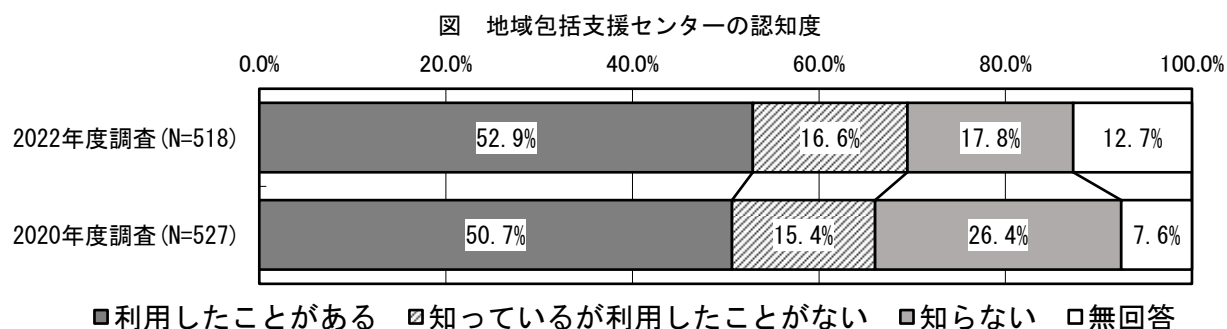
5 その他について

■地域包括支援センターの認知度

あなたは、地域包括支援センターをご存じですか。（1つに○）

地域包括支援センターの認知度についてみると、「利用したことがある」（52.9%）が最も多く、次いで「知らない」（17.8%）、「知っているが利用したことがない」（16.6%）となっています。

前回調査と比較すると、「知らない」が 8.6 ポイント低くなっています（無回答の増加によるものと推測されます）。

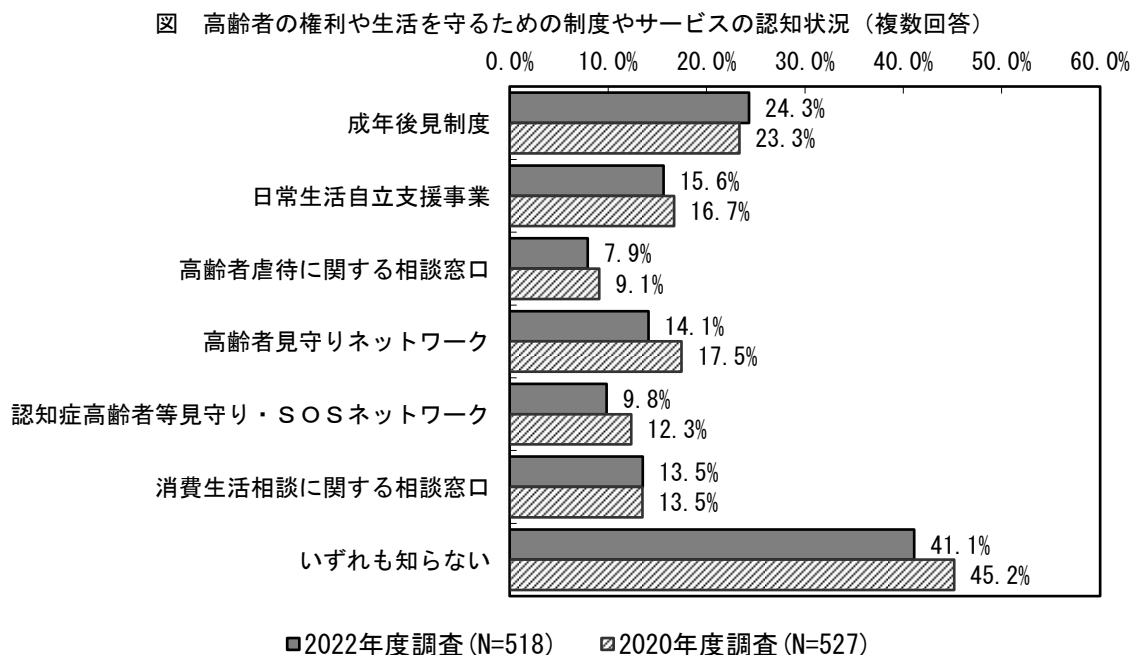


■高齢者の権利や生活を守るための制度やサービスの認知度

高齢者の権利や生活を守るために、以下のようなものがありますが、あなたをご存じのものはありますか。（あてはまるものすべてに○）

高齢者の権利や生活を守るための制度やサービスの認知状況についてみると、「いずれも知らない」（41.1%）が最も多く、次いで「成年後見制度」（24.3%）、「日常生活自立支援事業」（15.6%）となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はありません。



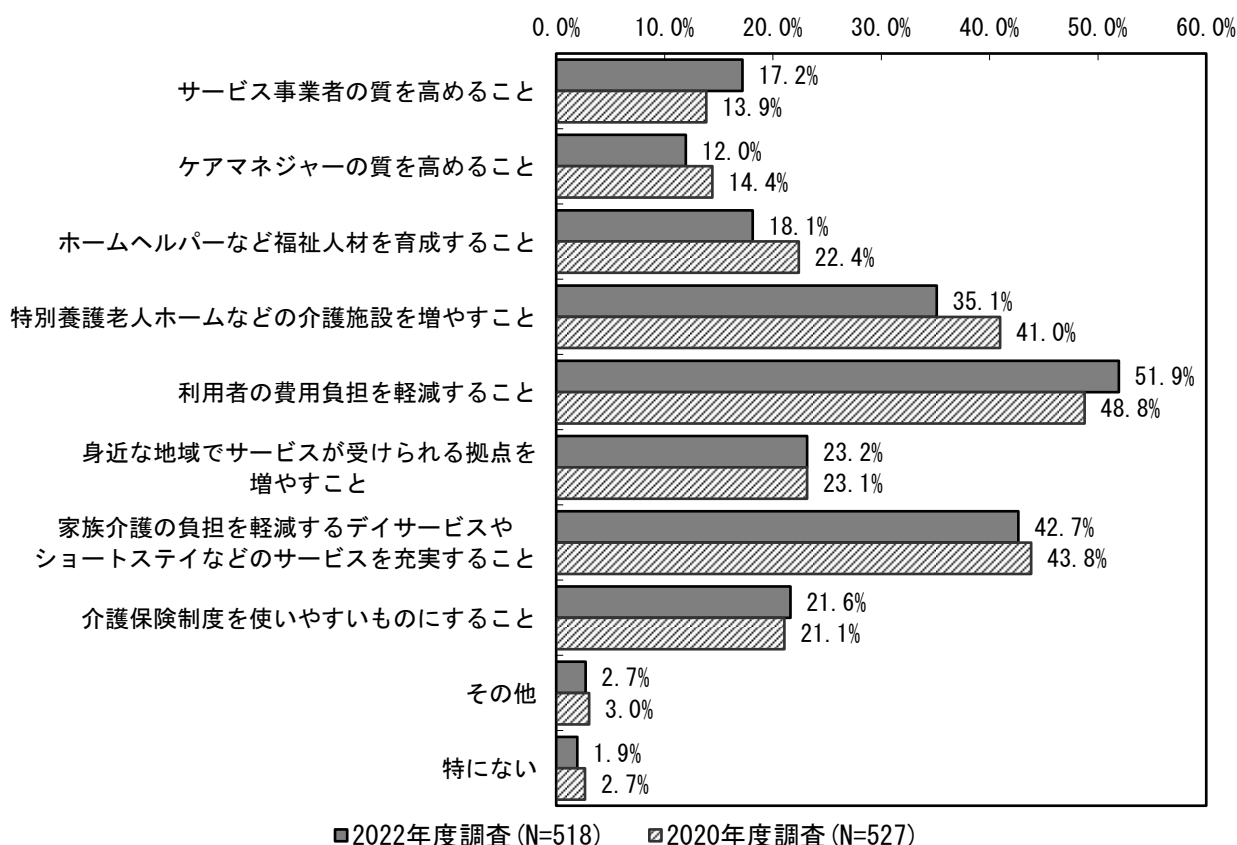
■介護保険制度全体をよりよくするために市が力を入れるべきこと

「介護保険制度」全体をよりよくするために、市が力を入れるべきことは次のうちどれだと思いますか。（3つまでに○）

介護保険制度全体をよりよくするために市が力を入れるべきことについてみると、「利用者の費用負担を軽減すること」（51.9%）が最も多く、次いで「家族介護の負担を軽減するデイサービスやショートステイなどのサービスを充実すること」（42.7%）、「特別養護老人ホームなどの介護施設を増やすこと」（35.1%）となっています。

前回調査と比較すると、「特別養護老人ホームなどの介護施設を増やすこと」が 5.9 ポイント低くなっています。

図 介護保険制度全体をよりよくするために市が力を入れるべきこと（3つ以内で複数回答）

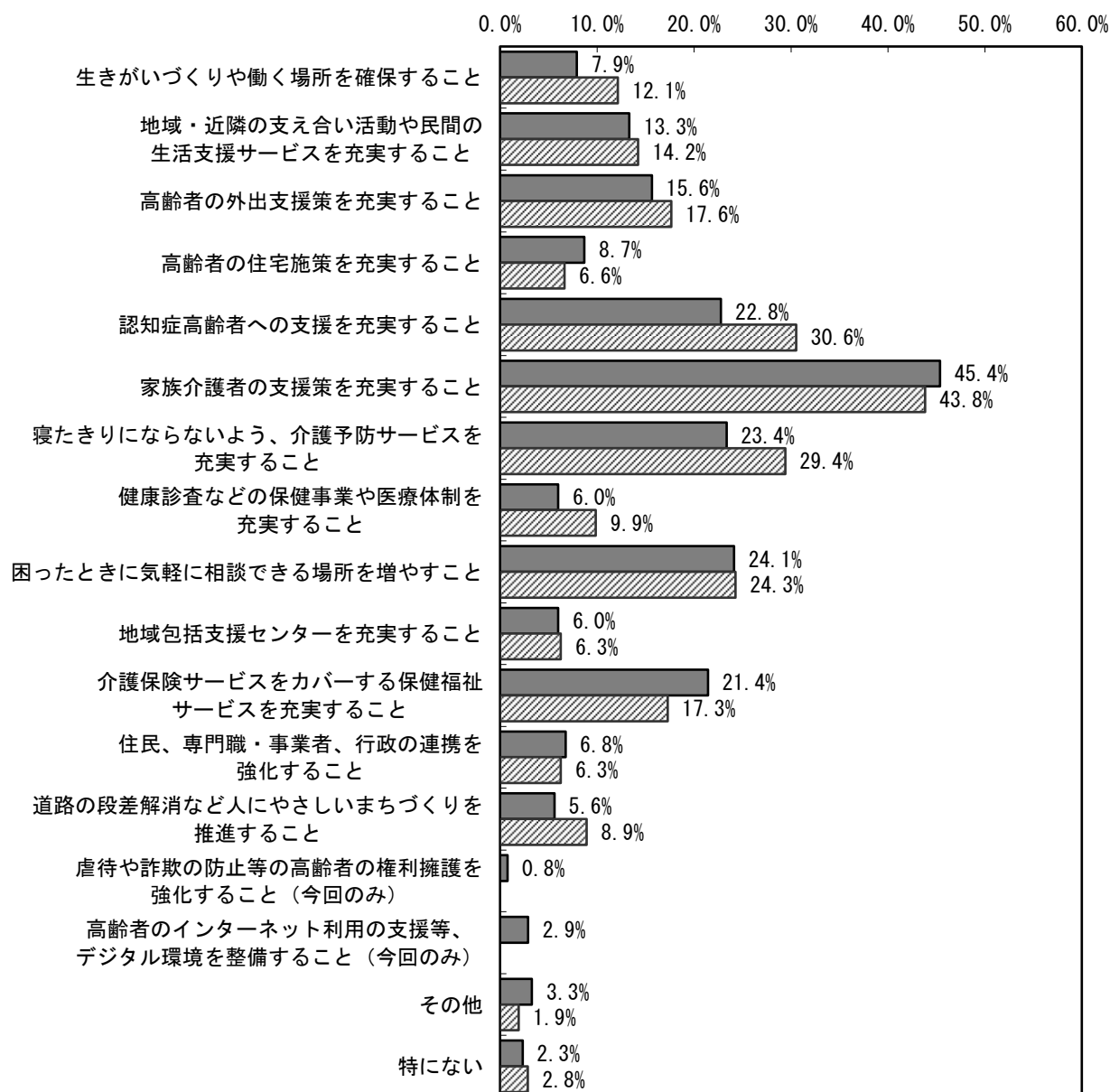


■市が高齢者施策として優先して取り組むべきもの

市が高齢者施策として取り組むものとして、次のうちどれを優先して充実すべきとお考えですか。（3つまでに○）

市が高齢者施策として優先して取り組むべきものについてみると、「家族介護者の支援策を充実すること」（45.4%）が最も多く、次いで「困ったときに気軽に相談できる場所を増やすこと」（24.1%）、「寝たきりにならないよう、介護予防サービスを充実すること」（23.4%）となっています。

図 市が高齢者施策として優先して取り組むべきもの（3つ以内で複数回答）

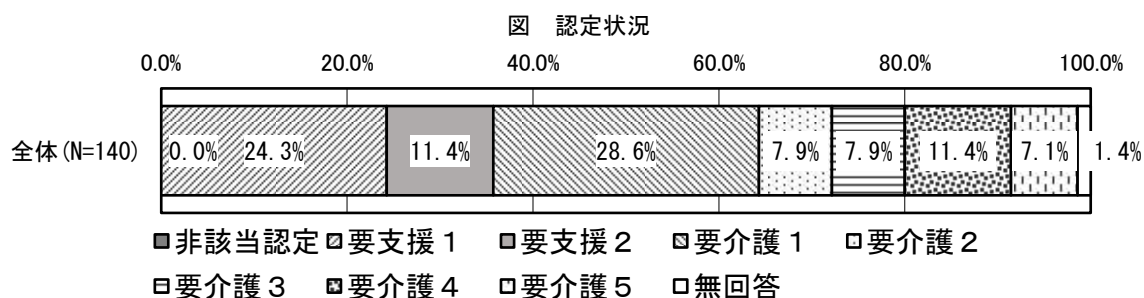


■2022年度調査 (N=518) ▨2020年度調査 (N=527)

第4章 在宅介護実態調査の概要

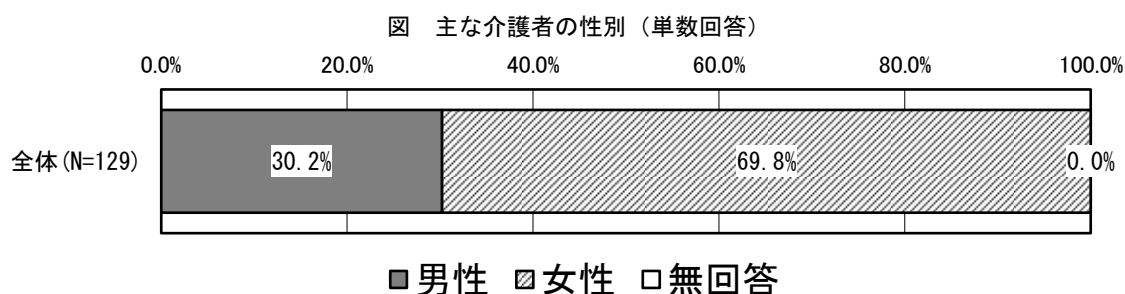
■本人の認定状況

認定状況をみると、「要介護1」（28.6％）が最も多く、次いで「要支援1」（24.3％）、「要支援2」と「要介護4」が11.4％となっています。

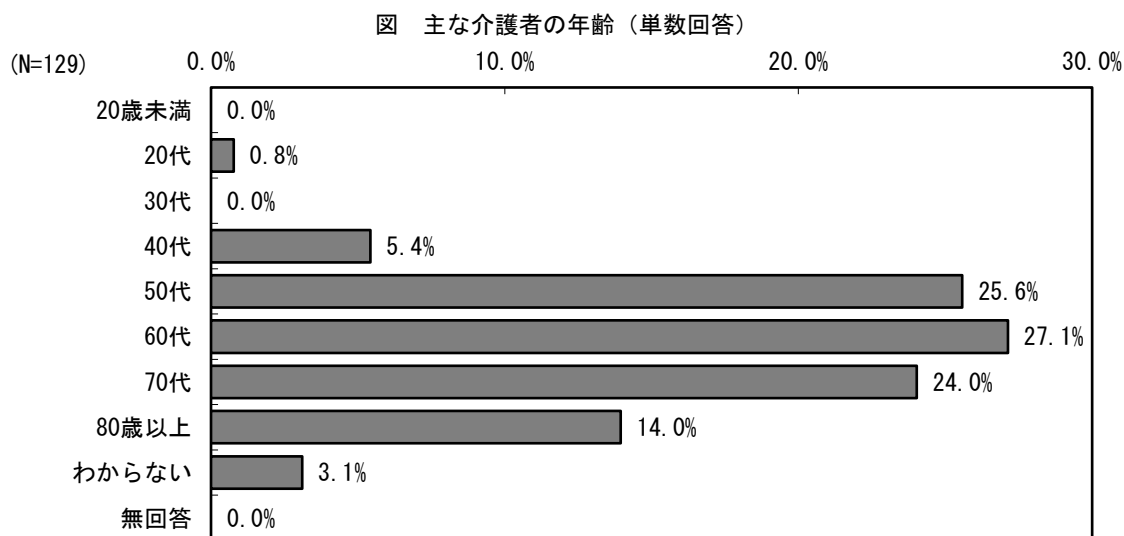


■主な介護者の性別・年齢

主な介護者の性別をみると、「女性」が69.8％、「男性」が30.2％となっています。

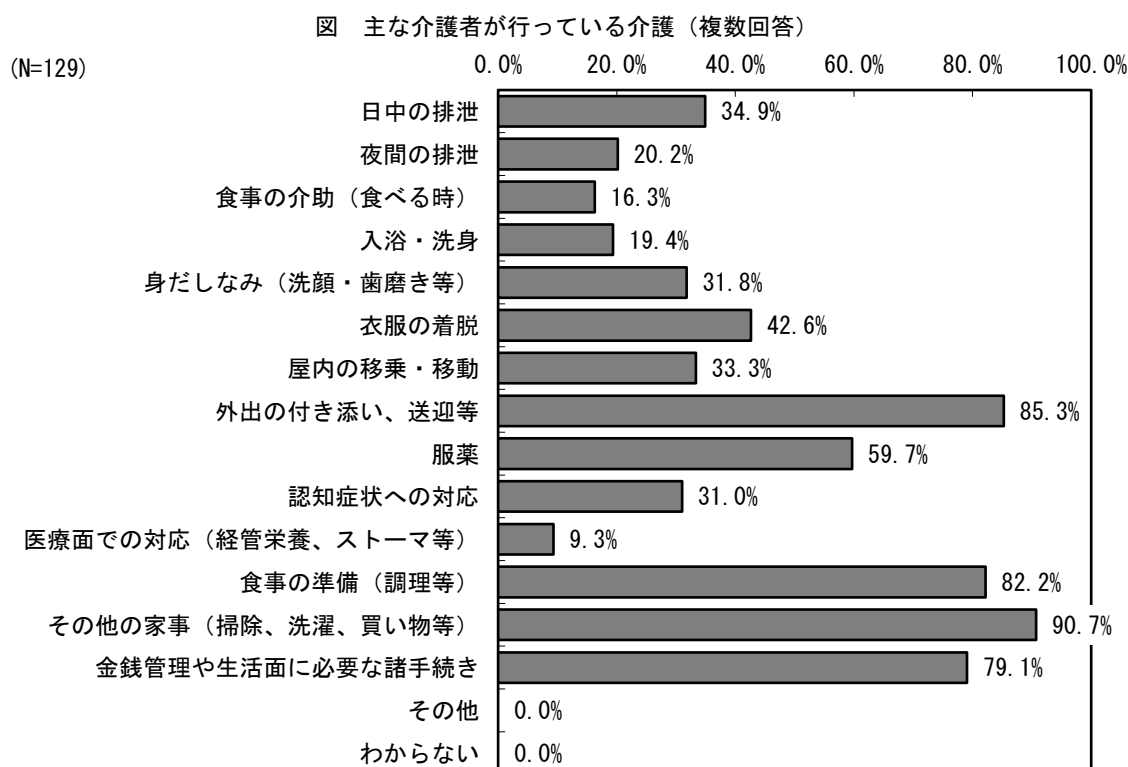


主な介護者の年齢をみると、「60代」（27.1％）が最も多く、次いで「50代」（25.6％）、「70代」（24.0％）、「80歳以上」（14.0％）となっており、50代以上が9割を占めています。



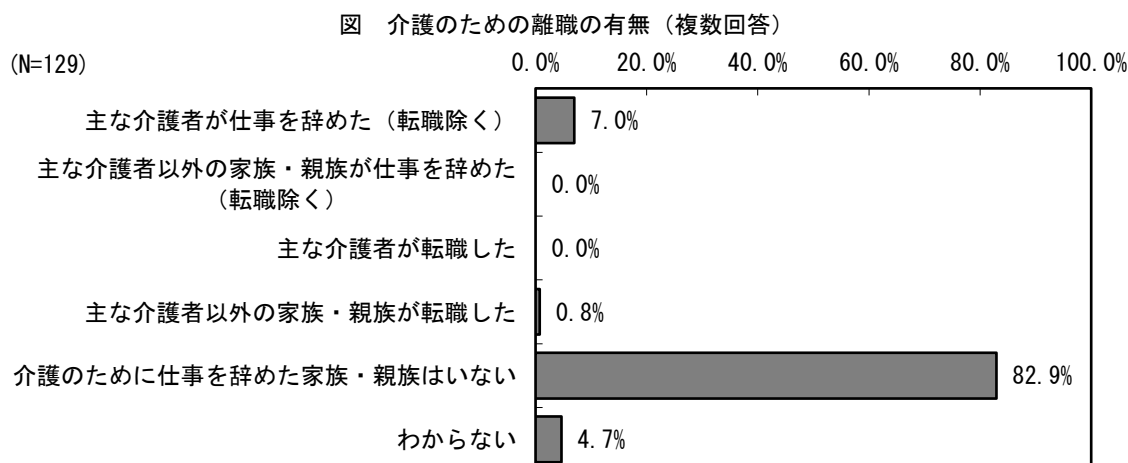
■主な介護者が行っている介護

主な介護者の方が行っている介護等をみると、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」（90.7%）が最も多く、次いで「外出の付き添い、送迎等」（85.3%）、「食事の準備（調理等）」（82.2%）となっています。



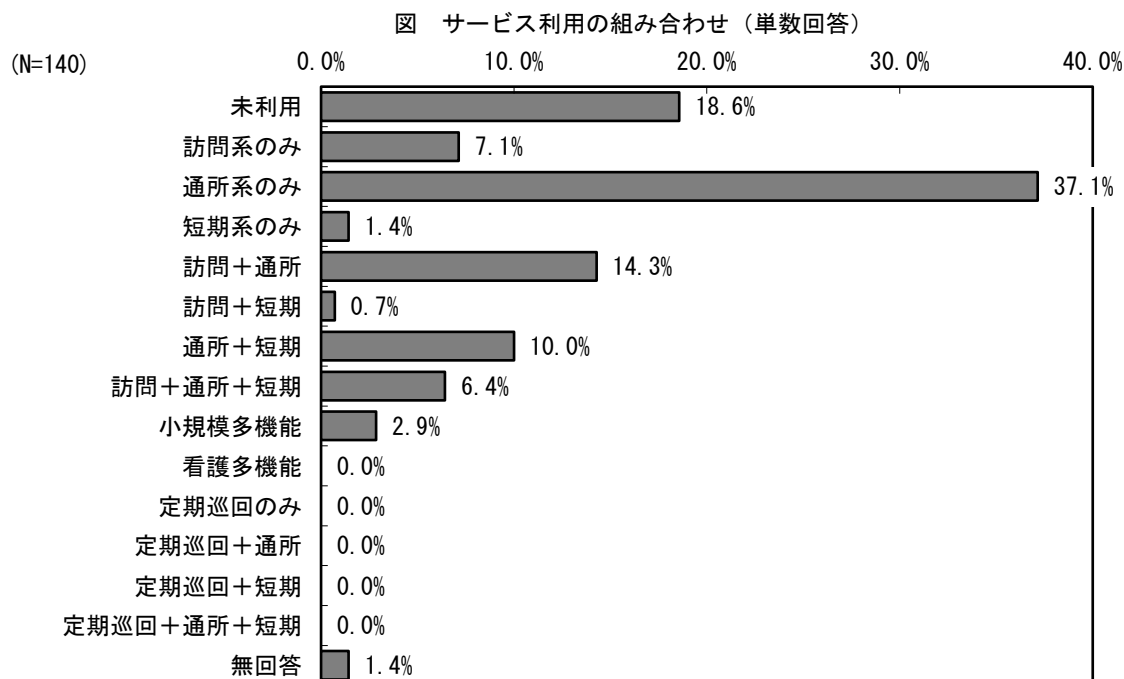
■介護のための離職の有無

本人の介護を主な理由として、過去 1 年の間に仕事を辞めた家族や親族の有無をみると、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」（82.9%）が最も多く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」（7.0%）、「わからない」（4.7%）となっています。



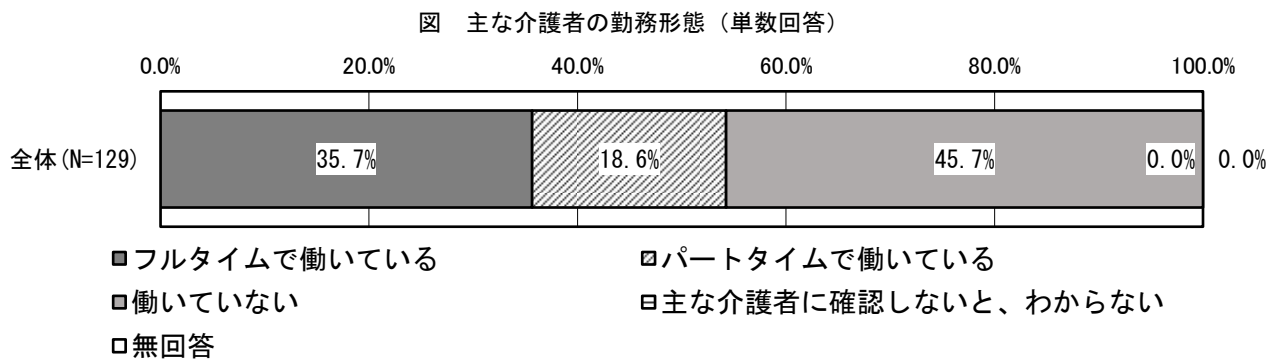
■介護保険サービスの利用の有無

サービス利用の組み合わせをみると、「通所系のみ」(37.1%)が最も多く、次いで「未利用」(18.6%)、「訪問+通所」(14.3%)となっています



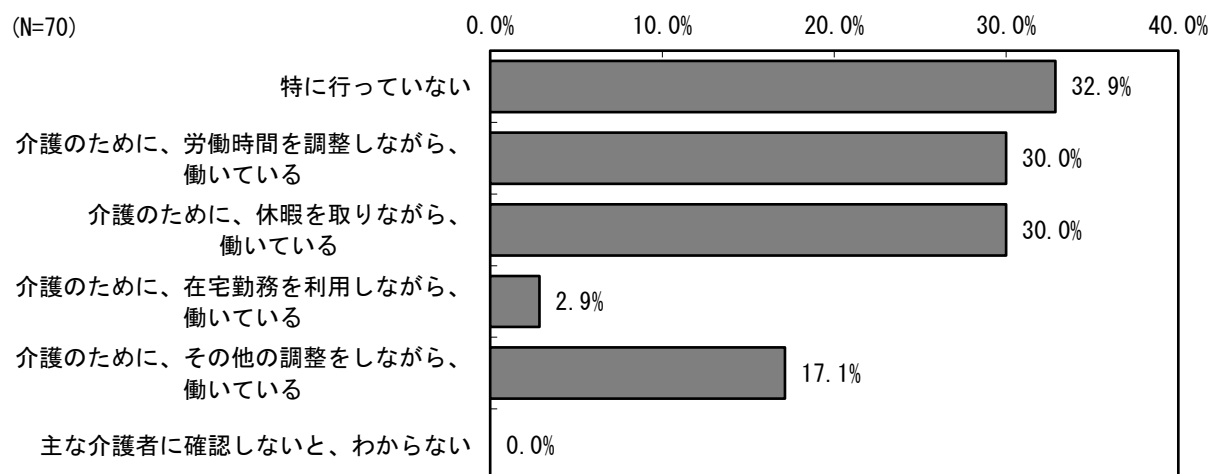
■主な介護者の勤務形態と働き方の調整状況

主な介護者の現在の勤務形態についてみると、「フルタイムで働いている」と「パートタイムで働いている」を合わせると、現在勤務している主な介護者は54.3%となっています。



現在勤務している主な介護者について、働き方についての調整等の状況をみると、「特に行っていない」(32.9%)が最も多く、次いで「介護のために、労働時間を調整しながら、働いている」、「介護のために、休暇を取りながら、働いている」(ともに 30.0%)、「介護のために、その他の調整をしながら、働いている」(17.1%)となっています。

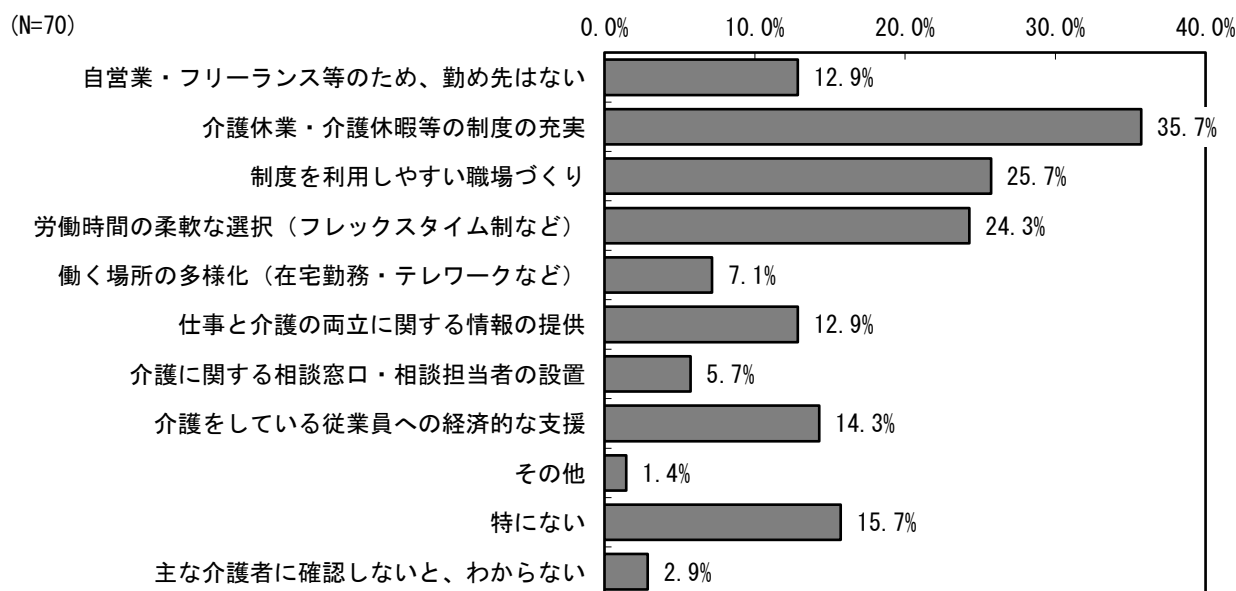
図 主な介護者の働き方の調整状況（複数回答）



■就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援

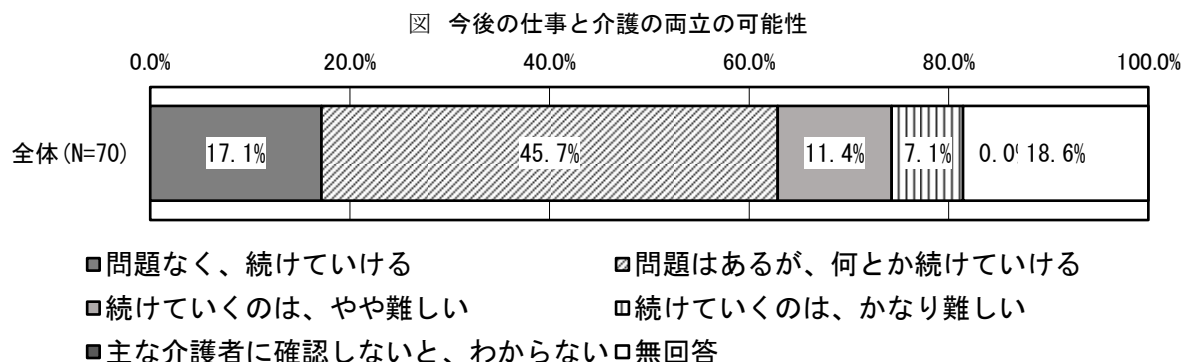
現在勤務している主な介護者について、勤め先からの仕事と介護の両立に効果がある支援をみると、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」(35.7%)が最も多く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」(25.7%)、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」(24.3%)となっています。

図 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援（複数回答）



■今後の仕事と介護の両立の可能性

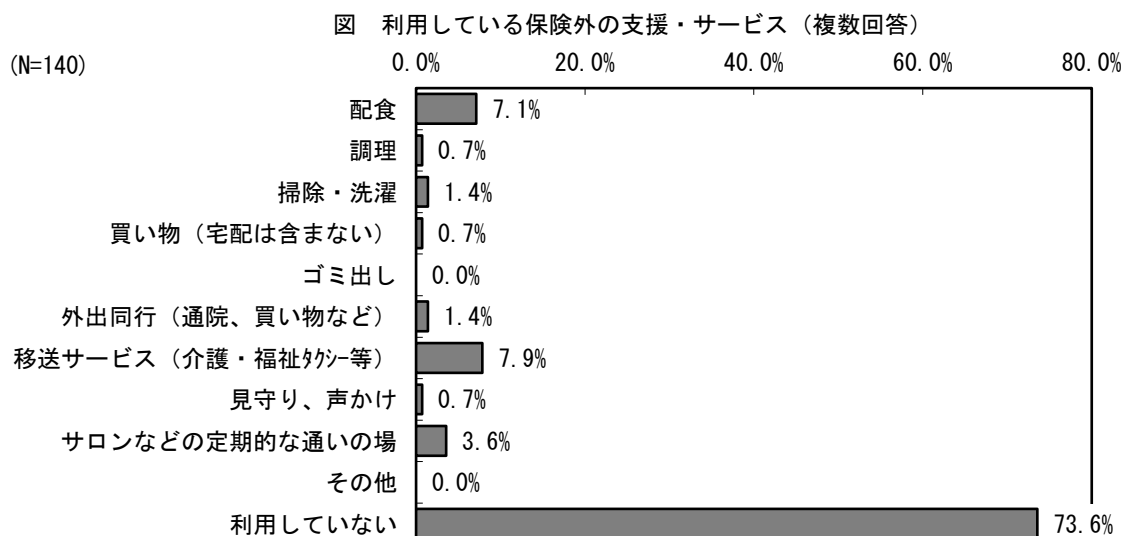
現在勤務している主な介護者について、今後の仕事と介護の両立の可能性をみると、「問題はあるが、何とか続けていける」(45.7%)が最も多く、次いで「問題なく、続けていける」(17.1%)、「続けていくのは、やや難しい」(11.4%)となっています。



■在宅生活の継続のために利用している保険外サービスと必要と感じるサービス

【利用している保険外サービス】

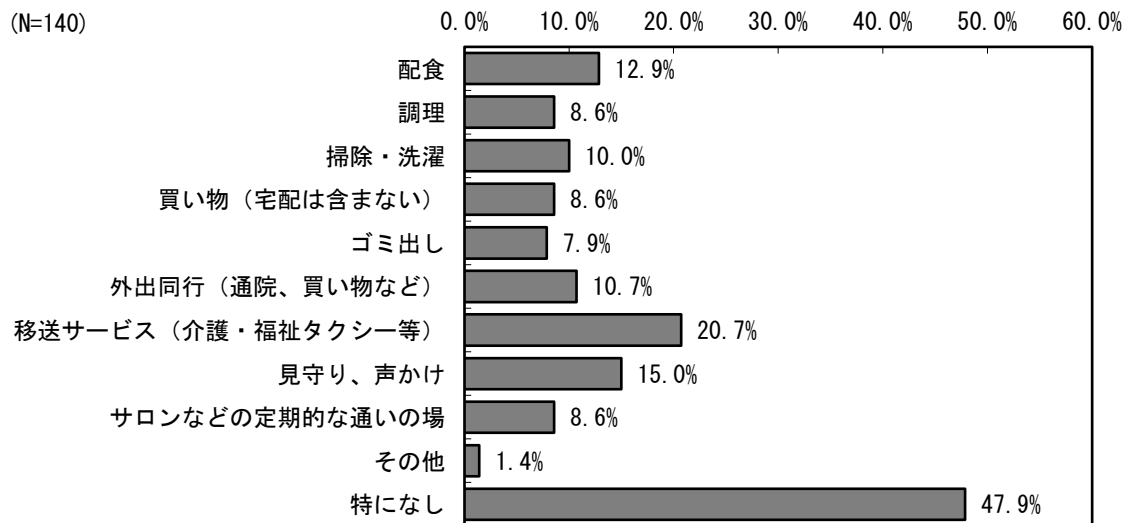
現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについてみると、「利用していない」(73.6%)が最も多くなっています。利用している支援・サービスとしては、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」(7.9%)が最も多く、次いで「配食」(7.1%)、「サロンなどの定期的な通いの場」(3.6%)となっています。



【必要と感じる支援・サービス】

今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについてみると、「特になし」(47.9%)が最も多くなっています。必要と感じる支援・サービスとしては「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」(20.7%)が最も多く、次いで「見守り、声かけ」(15.0%)、「配食」(12.9%)となっています。

図 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(複数回答)



■訪問診療の利用状況

本人の訪問診療の利用状況をみると、「利用している」は9.3%となっています。

図 A問12 訪問診療の利用状況

